PC98-NX

PC98-NX シリーズ

VersaPro
VersaPro J

UltraLite タイプVS

活用ガイド
ハードウェア編

本体の構成各部

周辺機器の利用

システム設定

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』の「8 マニュアルの使用方法」でご確認ください。

◆添付品の確認、本機の接続、Windows Vistaのセットアップ
➡『はじめにお読みください』

◆本機を安全に使うための情報
➡『安全にお使いいただくために』

このマニュアルです

◆本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)
➡『活用ガイド　ハードウェア編』(電子マニュアル)

◆本機の機能を拡張する機器の取り付け方
➡『活用ガイド　ハードウェア編』(電子マニュアル)

◆本機にインストール／添付されているアプリケーションの削除／追加、他のOSのセットアップ
➡『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆トラブル解決方法
➡『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆再セットアップ方法
➡『活用ガイド　再セットアップ編』

◆選択アプリケーション(ワードプロセッサ／表計算ソフトウェア)の利用方法
➡Microsoft® Office Personal 2007、Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007、Microsoft® Office Professional 2007があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

◆パソコンに関する相談窓口、保証期間と保証規定の詳細内容およびQ&A、有償保守サービス、お客様登録方法、NECの「ビジネスPC」サイトのご案内
➡『保証規定＆修理に関するご案内』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。
http://www.microsoft.com/japan/info/press/

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それらを操作するためのマウスの基本的な動作がひと通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。
　もし、あなたがパソコンに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などでひと通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

　選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様に合わせてお読みください。
　仕様についての詳細は、『はじめにお読みください』の「10 付録 機能一覧」をご覧ください。

2009年　6月　初版

このマニュアルの対象機種について

このマニュアルの対象機種は、次のタイプおよび型番です。
型番の「＊」の箇所には、PC98-NXシリーズ VersaProの場合は「Y」、PC98-NXシリーズ VersaPro Jの場合は「J」の文字が入ります。

PC98-NX**シリーズ** VersaPro
PC98-NX**シリーズ** VersaPro J

UltraLite **タイプ**VS	V＊18V/SA-7

型番の調べ方、読み方については、『はじめにお読みください』をご覧ください。
また、マニュアル中の説明で、タイプ名や型番を使用している場合があります。

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号
このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
メモ	**利用の参考となる補足的な情報をまとめています。**
参照	**マニュアルの中で関連する情報が書かれているところを示しています。**

◆このマニュアルで使用している表記の意味

本機、本体	**このマニュアルの対象機種を指します。** **特に周辺機器などを含まない対象機種を指す場合、「本体」と表記します。**
DVD/CD**ドライブ**	DVD-ROM**ドライブ、または**DVD**スーパーマルチドライブを指します。書き分ける必要のある場合は、そのドライブの種類を記載します。**
DVD-ROM**モデル**	DVD-ROM**ドライブを添付しているモデルを指します。**
DVD**スーパーマルチモデル**	DVD**スーパーマルチドライブを添付しているモデルを指します。**
DVD/CD**モデル**	DVD-ROM**ドライブ、または**DVD**スーパーマルチドライブを添付しているモデルを指します。**
FDD**モデル**	**フロッピーディスクドライブを添付しているモデルを指します。**

無線LANモデル	IEEE802.11b/g(2.4GHz)の規格に対応した無線LANインターフェイスを内蔵しているモデルを指します。
BIOSセットアップユーティリティ	本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「BIOS SETUP UTILITY」と表示されます。
「アプリケーションCD-ROM」	「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」を指します。
「スタート」ボタン	画面左下にある、ボタンを指します。
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」	「スタート」ボタンをクリックし、表示されたスタートメニューから「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」を順にクリックする操作を指します。
【　】	【　】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。 【Ctrl】+【Y】と表記してある場合は、【Ctrl】キーを押したまま【Y】キーを押すことを指します。
『　』	『　』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、Windows Vista、Windows Vista Business	Windows Vista® Business with Service Pack 1 (SP1)
インターネットエクスプローラ	Windows® Internet Explorer® 7
Windows Media Player	Microsoft® Windows Media® Player 11
ウイルスバスター	ウイルスバスター™ 2009
Always アップデートエージェント	Phoenix Always™,Trend Micro Pattern Update Agent
WinDVD for NEC	InterVideo® WinDVD® for NEC

◆このマニュアルで使用しているイラスト、画面、記載内容について

・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。

・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

◆「ユーザー アカウント制御」について

アプリケーションを起動したり、本機を操作しているときに「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。

「ユーザー アカウント制御」は、コンピュータウイルスなどの「悪意あるソフトウェア」によって、本機のシステムに影響を及ぼす可能性のある操作が行われるのを防ぐため、これらの操作がユーザーが意図して行った操作によるものかを確認するためのものです。

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。

「ユーザー アカウント制御」画面で管理者権限を持つユーザーのパスワード入力が求められる場合があります。その場合は、画面の内容を確認し入力を行ってください。

◆デバイス マネージャの開き方

1. 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
2. 「システムとメンテナンス」をクリックし、「デバイス マネージャ」をクリック
   「ユーザー アカウント制御」の画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作を行ってください。
   「デバイス マネージャ」が表示されます。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス[NEC UltraCare[SM] International Service]対象機種に限り、当社の定めるサービス対象地域から日本への引取修理サービスを行います。
サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/navigate/rescue/ultracare/jpn/index.html
(7) 本機の内蔵SSDにインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のDVD-ROM、CD-ROM、およびフロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
(10)本書に記載されている内容は、このマニュアルの制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Aero、Outlook、Windows Media、ReadyBoost、ReadyDriveおよびWindowsのロゴは、米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。
Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
インテル、Intel、Celeron、Intel SpeedStep、インテル Core、インテル AtomおよびPentiumはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
TRENDMICRO、およびウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
Roxio Creator、およびBackOnTrackは、米国Sonic Solutions社の商標または登録商標です。
Corel、InterVideo,WinDVDはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。

PS/2はIBMが所有している商標です。
SDおよびSDHCロゴは商標です。miniSDおよびmicroSDはSDアソシエーションの商標です。
DeviceProtector、SecureRedirectorおよびFlyFolderはNECパーソナルプロダクツ株式会社の登録商標です。
WebSAMは日本電気株式会社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。（ただし、海外保証サービス[NEC UltraCare℠ International Service]**対象機種については、ご購入後一年間、日本への引取修理サービスを受けられます。）**

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC※1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC※1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.(Only some products which are eligible for NEC UltraCare℠ International Service can be provided with acceptance service of repair inside Japan for one year after the purchase date.)

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

※1：NEC Corporation、NEC Personal Products, Ltd.

目　次

PART

PART 4

PART

1

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

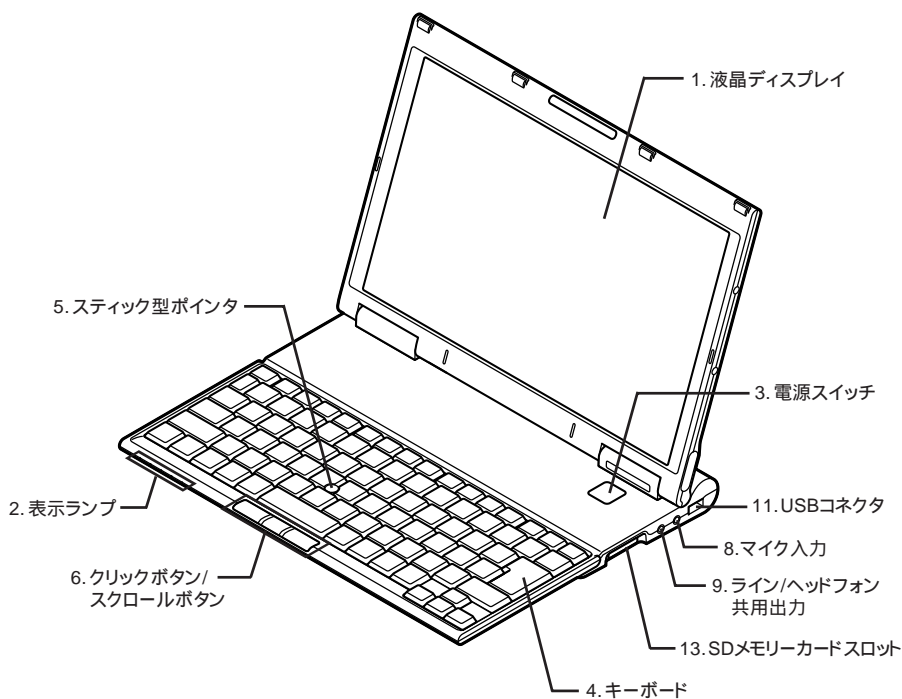
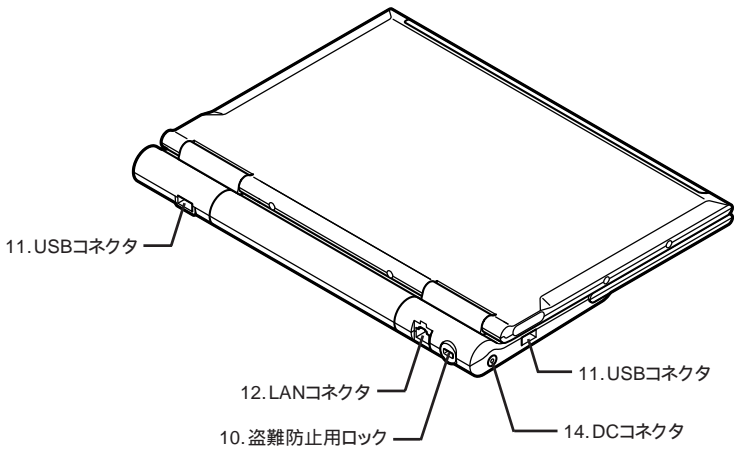
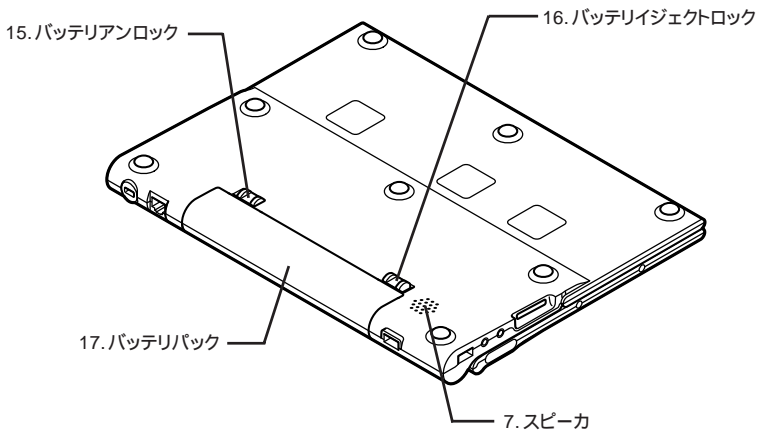
順番に読んでいく必要はありません。目的に合わせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称

本体の各部の名称と役割について説明しています。
各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

UltraLite タイプVS

◎ 本体前面／右側面

◎ 本体背面／左側面

◎ 本体底面

各部の説明

1. 液晶ディスプレイ

本機のディスプレイです。
詳しくは「液晶ディスプレイ」(p.87)をご覧ください。

2. 表示ランプ

本機の動作状態を表します。
詳しくは「表示ランプ」(p.18)をご覧ください。

3. 電源スイッチ(⏻)

電源のオン／オフや省電力機能を使用するときのスイッチです。
詳しくは「電源」(p.20)をご覧ください。

4. キーボード

詳しくは「キーボード」(p.54)をご覧ください。

5. スティック型ポインタ

Windowsでマウスカーソルの移動をする際に使用します。
詳しくは「スティック型ポインタ」(p.63)をご覧ください。

6. クリックボタン/スクロールボタン

Windowsでクリックやダブルクリックの操作や、画面のスクロールを行う際に使用します。
詳しくは「スティック型ポインタ」(p.63)をご覧ください。

7. スピーカ

内蔵のモノラルスピーカです。

8. マイク入力()

市販のマイクロフォンを接続し、音声を入力するための端子です。

9. ライン/ヘッドフォン共用出力()

市販のヘッドフォンやオーディオ機器を接続し、音声を出力するための端子です。

10.盗難防止用ロック（K）

別売のセキュリティケーブルを取り付けることができます。
詳しくは「セキュリティ機能／マネジメント機能」（p.106）をご覧ください。

11.USBコネクタ（）

USB機器を接続するための端子です。
詳しくは「PART2 周辺機器の利用」の「USBコネクタ」（p.127）をご覧ください。

12.LANコネクタ（）

LAN（ローカルエリアネットワーク）に接続するための端子です。
詳しくは「LAN（ローカルエリアネットワーク）」（p.93）をご覧ください。

13.SDメモリーカードスロット

「SDメモリーカード」を読み書きできるスロットです。
詳しくは「SDメモリーカードスロット」（p.83）をご覧ください。

14.DCコネクタ（）

添付のACアダプタを接続するための端子です。

15.バッテリアンロック

バッテリパックを取り外すときに使用します。
詳しくは「バッテリ」（p.39）をご覧ください。

16.バッテリイジェクトロック

バッテリパックを取り外すときに使用します。
詳しくは「バッテリ」（p.39）をご覧ください。

17.バッテリパック

AC電源が無いところで電源を供給するための充電式電池です。
詳しくは「バッテリ」（p.39）をご覧ください。

表示ランプ

電源ランプ

ランプ		本機の状態
青	点灯	電源が入っている
	点滅	スリープ状態
オレンジ	点灯	バッテリ容量が少ない
	点滅※1	スリープ状態でバッテリ容量が少ない
	速い点滅※2	バッテリ容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

※1：約3秒に1回点滅
※2：約2秒に1回点滅

バッテリ充電ランプ

ランプ		本機の状態
オレンジ	点灯	バッテリパック充電中
	点滅	バッテリのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、バッテリが空または充電完了

ディスクアクセスランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	SSDにアクセス中
消灯	SSDにアクセスしていない

キャップスロックキーランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

スクロールロックキーランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーボードの一部をテンキーとして使用できます。
消灯	【Num Lock】がロックされていない

SDメモリーカードスロットアクセスランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	アクセス中
消灯	アクセスしていない

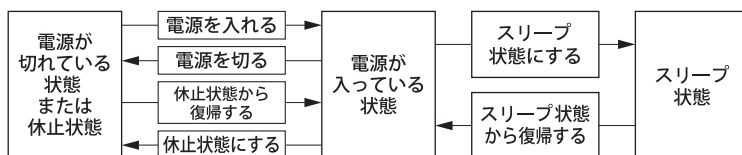
無線LANランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	無線LAN機能が使用可能
消灯	無線LAN機能が使用不可

電源

本機の電源の入れ方と切り方、省電力機能などについて説明しています。

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が入っている状態」「スリープ状態」「休止状態」「電源が切れている状態」の4つの状態があります。

◆電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

◆スリープ状態

作業中のメモリの状態を保持したまま、SSDなどのドライブやディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えます。メモリの状態を保持するための電力は供給されているので、すぐに作業を再開できます。

◆休止状態

メモリの情報をすべてSSDに保存し、本体の電源を切ります。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元します。

◆電源が切れている状態

本機の電源を完全に切った状態です。メモリなどの増設はこの状態で行ってください。

電源の状態は、本体の電源ランプで確認することができます。

参照 **電源ランプについて→「各部の名称」の「表示ランプ」**（p.18）

電源の入れ方と切り方

◎ 電源を入れる

電源を入れる際は、次の手順に従って正しく電源を入れてください。

チェック!!

- 本機のドライブに、DVDやCD、フロッピーディスクがセットされた状態で電源を入れると、それらのディスクから起動したり、本機が起動できない場合があります。その場合は、セットされているディスクを取り出してから、電源を入れ直してください。
- いったん電源を切った後で、電源を入れ直す場合は、電源を切ってから5秒以上間隔をあけて電源を入れてください。
- メモリを増設した場合、メモリの組み合わせによっては、初期化のために電源を入れてから画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。

1. 周辺機器の電源を入れる
2. 本体の電源スイッチを押す

◎ 電源を切る

電源を切る際は、次の手順に従って正しく電源を切ってください。

チェック!!

- Windowsやアプリケーションの起動中や、アクセスランプなどが点灯している場合は、電源を切らないでください。
- アプリケーションのエラーなどでWindowsの操作ができない場合の電源の強制切断方法については、『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「電源を切るとき」をご覧ください。
- 通信を行っている場合は、通信が終了していることを確認してから電源を切ってください。通信中に電源を切ると、通信中のデータが失われる場合があります。

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 「スタート」ボタンをクリック

3 （「ロック」ボタン）の横にあるをクリックし、表示されたメニューから「シャットダウン」をクリック

シャットダウン処理終了後、電源が自動で切れます。
電源スイッチは押さないでください。

4 電源ランプが消灯し、本機の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る

省電力機能について

省電力機能とは、CPU、SSDなどのドライブ、ディスプレイといった、本機の主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したい場合や、中断した作業をすぐに再開したい場合にも便利な機能です。

本機の省電力機能には、「スリープ状態」「休止状態」「ECOモード機能」があります。
また、「節電設定ツール」を使用することで、本機の無線LAN機能やLAN機能のオン／オフを切り替えることができます。

- **ECOモード機能**
  ECOボタン（【Fn】＋【F4】）またはホットキーを押すことで、簡単に電源プランを切り替えることができます。

- **節電設定ツール**
  無線LAN機能やLAN機能のオン／オフの切り替えができます。

- **Intel SpeedStep® テクノロジー**
  処理の負荷などによって、CPUの動作性能を切り替える機能です。

参照
- スリープ状態について→「スリープ状態」（p.25）
- 休止状態について→「休止状態」（p.28）
- ECOモード機能について→「ECOモード機能」（p.35）
- 節電設定ツールについて→「節電設定ツール」（p.32）
- Intel SpeedStep® テクノロジーについて→「Intel SpeedStep® テクノロジー」（p.34）

省電力機能使用上の注意

◎ スリープ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スリープ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

・プリンタへ出力中
・通信用アプリケーションを実行中
・LANまたは無線LANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
・電話回線を使用して通信中
・音声または動画を再生中
・SSD、CDやDVD、フロッピーディスクなどにアクセス中
・「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
・Windowsの起動／終了処理中
・スリープ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用しているとき
・スリープ状態または休止状態に対応していないUSB機器などを使用しているとき

◎ スリープ状態または休止状態を使用する場合の注意

スリープ状態のときに次のことが起きると、作業中のデータが失われますので、ご注意ください。

・バッテリのみで使用している状態で、バッテリが切れた
・バッテリ残量が十分でないときに、停電やACアダプタが抜けるなどの理由で、バッテリのみで使用している状態になった
・電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った

スリープ状態または休止状態にする場合は、次のことに注意してください。

・スリープ状態または休止状態から復帰後、すぐにスリープ状態または休止状態にする場合は、本機に負担がかからないように、復帰後、5秒以上経過してから操作してください。
・スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスリープ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。

- 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
- バッテリのみで使用する場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます。

参照 「バッテリ」の「バッテリの使い方と設定」(p.41)

- スリープ状態または休止状態への移行中は、各種ディスク、SDメモリーカードなどの各種メモリーカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スリープ状態または休止状態中に、機器構成を変更すると、正しく復帰できなくなることがあります。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器(マウスまたはキーボード以外)を外してください。USB機器を接続した状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- スリープ状態または休止状態への移行中にはUSB対応機器の抜き差しをしないでください。
- 「電源オプション」で各設定を変更する場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。
- CDやDVD、フロッピーディスクをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにCDやDVD、フロッピーディスクから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、CDやDVD、フロッピーディスクを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用している場合は、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。
- DVD/CDドライブにフォトCDをセットしたままスリープ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。

◎ スリープ状態または休止状態から復帰する場合の注意

スリープ状態または休止状態から復帰する場合は、次のことに注意してください。

- スリープ状態または休止状態にしてからすぐに復帰する場合は、本機に負担がかからないよう、スリープ状態または休止状態になった後、5秒以上経過してから操作してください。

- スリープ状態または休止状態中に周辺機器の取り付けや取り外しなどの機器構成を変更すると、正常に復帰できなくなることがあります。
- スリープ状態や休止状態からの復帰中にはUSB機器の抜き差しをしないでください。
- スリープ状態または休止状態からの復帰を行った場合、本体は復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、スティック型ポインタを操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- 次のような場合には、復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

  - アプリケーションが動作しない
  - スリープ状態または休止状態にする前の内容を復元できない
  - スティック型ポインタ、キーボード、電源スイッチを操作しても復帰しない

  このような状態になるアプリケーションを使用しているときは、スリープ状態または休止状態にしないでください。
  電源スイッチを押しても復帰できなかったときは、電源スイッチを4秒以上操作し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。
  この場合、BIOSセットアップユーティリティの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再度設定してください。

スリープ状態

作業中のメモリの状態を保持したまま、SSDなどのドライブやディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリの状態を保持するための電力は供給されているので、すぐに作業を再開できます。

スリープ状態への移行およびスリープ状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

◎ スリープ状態にする

工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動でスリープ状態にするには、次の方法があります。

◆「スタート」ボタンからスリープ状態にする

1 「スタート」ボタンをクリックし、（「電源」ボタン）をクリック

Windowsが終了し、スリープ状態になります。
Windowsの終了処理中は電源スイッチを押さないでください。

2 電源ランプを確認する

本体がスリープ状態になると、電源ランプが点滅します。

◆液晶ディスプレイを閉じる

◆電源スイッチを押す

チェック!!

電源スイッチでスリープ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れて、保存していないデータは失われてしまいます。

◎スリープ状態から復帰する

スリープ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。

◆電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押す

電源スイッチを押して復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源が切れ、保存していないデータが失われます。

2 ユーザ選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザを選択する

3 パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザのパスワードを入力する

◆液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイを閉じてスリープ状態にした場合は、液晶ディスプレイを開くことでスリープ状態から復帰できます。

チェック!!

スリープ状態で長時間経過した場合やバッテリ残量が少なくなった場合、自動的に本機が休止状態になっている場合があります。その場合は、電源スイッチで復帰させてください。

◎ ハイブリッドスリープ

スリープ状態に移行する際に、メモリとSSDの両方に作業中のデータを保存するスリープ状態です。SSDにもデータが保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもSSDから復帰することができます。

チェック!!

- 工場出荷時は、ハイブリッドスリープを使用しない設定になっています。使用するには設定の変更が必要です。
- ハイブリッドスリープを使用する設定にした場合、「「スタート」ボタンから休止状態にする」の手順で休止状態にできなくなります。

参照

- 電源プランの設定の変更について→「省電力機能の設定」(p.29)
- ハイブリッドスリープの設定→Windowsのヘルプ
- 『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「省電力機能」

休止状態

メモリの情報をすべてSSDに保存し、本体の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元しますので、本機での作業を長時間中断する場合、消費電力を抑えるのに有効です。

> **チェック!!**
> 休止状態への移行および休止状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

◎ 休止状態にする

工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の方法があります。

> **チェック!!**
> ハイブリッドスリープを使用する設定にした場合、この方法で休止状態にすることはできません。

1 「スタート」ボタンをクリック

2 （「ロック」ボタン）の横にあるをクリックし、表示されたメニューから「休止状態」をクリック
休止状態への移行処理後、電源が自動で切れます。
電源スイッチは押さないでください。

3 電源ランプを確認する
本体が休止状態になると、電源ランプが消灯します。

◎ 休止状態から復帰する

休止状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順で行います。

1 電源スイッチを押す

2 ユーザ選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザを選択する

3 パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザのパスワードを入力する

省電力機能の設定

省電力機能の設定は、Windowsの「電源オプション」で行います。
「電源オプション」では、あらかじめ設定されている電源プランから使用するプランを選択するほか、新規のプランを作成することができます。
また、プランごとに省電力機能を実行するための操作の設定や、省電力機能が実行されるまでの時間を設定することができます。

◎ 電源プランの選択

設定されている電源プランから選択する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとメンテナンス」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 表示されているプランから使用したいプランを選択する
表示されているプラン以外から選択したい場合は、「追加のプランを表示します」をクリックし、表示されたプランから選択してください。

4 [x] ボタンをクリック

以上で電源プランの選択は完了です。

◎ 電源プランの設定の変更

すでに登録されている電源プランの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「電源プランの選択」の手順1〜2を行う

2 設定を変更したいプランの「プラン設定の変更」をクリック

3 表示された画面で設定を行う
電源の種類ごとに設定できます。

項目	説明
ディスプレイの電源を切る	指定した時間何も入力がない場合、ディスプレイの電源を切ります。
コンピュータをスリープ状態にする	指定した時間何も入力がない場合、本機がスリープ状態になります。
ディスプレイの輝度を調整	ディスプレイの輝度を設定します。

チェック!!

設定時間を変更したときに、「コンピュータをスリープ状態にする」時間が「ディスプレイの電源を切る」時間よりも短くならないように、設定時間が自動的に変更される場合があります。個別に設定する場合は「詳細な電源設定の変更」をクリックして設定してください。

メモ

- 「詳細な電源設定の変更」をクリックすると、電源プランごとに詳細な設定が行えます。
- 「このプランの既定の設定を復元する」を選択すると、設定値が既定の値に戻ります。

4 「変更の保存」ボタンをクリック

以上で電源プランの設定の変更は完了です。

◎ 電源プランの作成

新規の電源プランを作成する場合は、次の手順で行います。

1 「電源プランの選択」(p.29)の手順1〜2を行う

2 左のメニューから「電源プランの作成」をクリック

3 表示される電源プランから作成したいプランに近いプランを選択する

4 「プラン名」欄に作成する電源プラン名を入力し、「次へ」ボタンをクリック

5 表示される画面で設定を行う

6 「作成」ボタンをクリック

以上で電源プランの作成は完了です。
作成した電源プランは、「電源プランの選択」(p.29)の手順で選択できます。

◎ 省電力機能を実行する操作の変更

電源スイッチを押したり、液晶ディスプレイを閉じることで実行される省電力機能を変更する場合は次の手順で行います。

チェック!!

この手順で設定を行った場合、現在登録されているすべての電源プランの設定が変更されます。電源プランごとに設定を行いたい場合は、それぞれの電源プランの設定画面の「詳細な電源設定の変更」から行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとメンテナンス」をクリックし、「電源オプション」にある「電源ボタンの動作の変更」をクリック

3 「電源ボタンとカバーの設定」欄で、動作を設定する

- 電源ボタンを押して実行される省電力機能を設定する場合
  「電源ボタンを押したときの動作」欄で設定します。
- 液晶ディスプレイを閉じて実行される省電力機能を設定する場合
  「カバーを閉じたときの動作」欄で設定します。

チェック!!

工場出荷時の設定は次のようになっています。

- 「電源ボタンを押したときの動作」:「スリープ状態」
- 「カバーを閉じたときの動作」:「スリープ状態」

4 「変更の保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

節電設定ツール

節電設定ツールでは、次の設定を行うことができます。

・無線LAN機能のオン／オフ

・LAN機能のオン／オフ

・ワイヤレススイッチ（【Fn】＋【F2】）の設定

◎ 各機能の状態を確認する

無線LAN機能やLAN機能のオン／オフの状態は、次の方法で確認できます。

◆画面右下の通知領域で確認する

画面右下の通知領域にある、の上にマウスポインタを合わせると、現在のオン／オフの状態が表示されます。

また、どれか1つの機能でもオフになっている場合、画面右下の通知領域のアイコンがになります。

◎ 各機能のオン／オフを切り替える

無線LAN機能やLAN機能のオン／オフの切り替えは、次の方法で行えます。

◆キーボードから切り替える

無線LAN機能のオン／オフはキーボードから切り替えることができます。

機能	キー操作	説明
ワイヤレススイッチ	【Fn】＋【F2】	無線LAN機能のオン／オフを切り替えます。有効／無効は、「節電設定ツール」で設定することができます。

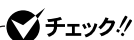
◆「節電設定ツール」画面で切り替える

「節電設定ツール」画面から、それぞれの機能のオン／オフを設定することができます。詳しくは、次の「節電機能の設定」をご覧ください。

◎ 節電機能の設定

節電機能の設定を行う場合は、次の手順で行います。

1 画面右下の通知領域にあるまたはを右クリックし、表示されたメニューから「節電設定ツールを開く」をクリック

「節電設定ツール」画面が表示されます。

ワイヤレスの設定を行う場合は、ワイヤレススイッチ(【Fn】+【F2】)でオンにしてから、「節電設定ツールを開く」をクリックしてください。

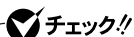
2 設定を行う

次の設定を行うことができます。

- 「有線LAN、ワイヤレスの設定」
  有線LANのオン/オフ、ワイヤレススイッチの設定ができます。
  - 「有線LANの設定」
    LAN機能のオン/オフを設定します。
    「有線LANを使う」にチェックを付けるとオンに、チェックを外すとオフになります。
  - 「ワイヤレスの設定」
    「ワイヤレスLANを使う」にチェックを付けると、無線LAN機能がオンになり、ワイヤレススイッチ(【Fn】+【F2】)でオン/オフの切り替えができるようになります。チェックを外すと、無線LAN機能は常にオフになります。

3 「OK」ボタンをクリック

電源の自動操作

タイマ、LANからのアクセス(リモートパワーオン機能)によって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマ、LANの自動操作によるスリープ状態からの復帰を行った場合、本体はスリープ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、スティック型ポインタなどのポインティングデバイスを操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

◎ タイマ機能（電源オプション）

設定した時間を経過しても、スティック型ポインタやキーボードからの入力やSSDへのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スリープ状態にすることができます。
工場出荷時は次のように設定されています。

使用している電源	電源プランの名称	ディスプレイの電源を切る	ハードディスクの電源を切る	スリープ状態にする	休止状態にする
ACアダプタ	標準	約10分	約10分	約25分	なし
バッテリ		約2分	約3分	約5分	約15分

メモ
本機は、省エネルギーのため工場出荷時にスリープ状態になるように設定してあります。

◎ リモートパワーオン機能（LANによる電源の自動操作）

LAN経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。

参照
- 「LAN（ローカルエリアネットワーク）」の「リモートパワーオン機能（Remote Power On機能）の設定」（p.97）
- 「セキュリティ機能／マネジメント機能」の「マネジメント機能」の「リモートパワーオン機能（Remote Power On機能）」（p.112）

Intel SpeedStep® テクノロジー

本機では、電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。
「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリックし、「システムとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックして表示される画面で設定を行ってください。

ECOモード機能

本機では、3つの省電力設定から利用シーンにあわせて、最適な設定に切り替えることができます。設定の切り替えは、ECOボタン(【Fn】+【F4】)、または設定したホットキーでキーボードから簡単に行うことができます。

ECOモード設定ツールのインストール

ECOモード設定ツールのインストールは、次の手順で行います。

チェック!!

- 「ECOモード設定ツール」は工場出荷時にはインストールされていません。
- インストールにはDVD/CDドライブが必要です。

1. DVD/CDドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットする
2. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
3. 「名前」に「<DVD/CDドライブ名>:¥NXSETUP.EXE」と入力し、「OK」ボタンをクリック
4. 「ECOモード設定ツール(タイプVS用)」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
   「ECOモード設定ツールセットアップウィザードへようこそ」画面が表示されます。
5. 「次へ」ボタンをクリック
   「使用許諾契約書」画面が表示されます。
6. 「同意する」を選択し、「次へ」ボタンをクリック
7. 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、DVD/CDドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出し、「閉じる」ボタンをクリック
8. 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上でECOモード設定ツールのインストールは完了です。

モードを切り替える

インストール直後の設定では、ECOモード機能で切り替えることのできるモードには次の3つがあり、「標準」が選択された状態になっています。

モード	通知領域のアイコンおよび色	説明
高性能	（青）	CPU速度を高速に保ち、時間が経過してもスリープ状態に移行しないモードです。電源プランは「高性能」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は5に設定されています。
標準	（水色）	本機の速度を優先させる設定ですが、操作がない状態で一定の時間が経過した場合、スリープ状態に移行します。電源プランは「標準」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は5に設定されています。
ECO	（緑）	電力をもっとも節約する設定で、標準よりも早い時間でスリープ状態に移行します。電源プランは「ECO」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は2に設定されています。

ECOボタン（【Fn】＋【F4】）または設定したホットキーを押すと、設定されているモードが表示され、以後、ECOボタンまたは設定したホットキーを押すごとに、モードが切り替わります。現在のモードは、画面右下の通知領域にあるアイコンで確認できます。

チェック!!

- 表中のアイコンはインストール直後の設定のものです。実際に表示されるアイコンは選択しているモードに割り当てている電源設定により異なります。
- ワンタッチスタートボタンを無効に設定している場合、ECOボタン（【Fn】＋【F4】）も無効になります。
- Windowsのログイン画面が表示されている場合、ECOボタン（【Fn】＋【F4】）、または設定したホットキーを押してもモードは変更されません。
- 省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVD-Videoディスクの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。

ECOモード機能の設定

◎ モードの設定の変更

ECOモード機能で切り替える各モードの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 表示される画面で設定を行う

- **電源プラン**
  それぞれのモードに割り当てる電源プランを選択します。
- **「詳細設定」ボタン**
  モードごとの電源プランをカスタマイズすることができます。
  「詳細設定」画面の「初期設定に戻す」ボタンをクリックすることで、各モードの設定をインストール直後の状態に戻せます。
- **「初期設定に戻す」ボタン**
  3つのモードと電源プランの組み合わせを、インストール直後の設定に戻します。

3 「OK」ボタンをクリック

チェック!!

- ECOモード設定ツールの各モードに設定している電源プランを削除した場合、削除した電源プランを選択していたモードには「設定なし」が設定されます。
- 「初期設定に戻す」ボタンでインストール直後の設定に戻したときに、インストール直後の設定で使用している電源プランが削除されていた場合も「設定なし」が設定されます。

◎ ホットキーの設定

ECOボタン(【Fn】+【F4】)とは別に、モードの切り替えに使用するホットキーを1つ設定できます。
ホットキーの設定は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 「ホットキーの設定」ボタンをクリック

3 使用するホットキーを選択し、「OK」ボタンをクリック

メモ

- ホットキーには、次のキーが設定できます。
  - 【Alt】+【F1】〜【F3】、【F5】〜【F12】
  - 【Ctrl】+【F1】〜【F12】
- 「初期設定に戻す」ボタンをクリックすると、ホットキーの設定をインストール直後の状態に戻します。

バッテリ

本機のバッテリパック(二次電池)の使い方やバッテリリフレッシュ、バッテリパックの交換などについて説明しています。

バッテリパックについて

- 本機に使用しているリチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。不要になった二次電池は、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。
- バッテリについてはJEITA(社団法人 電子情報技術産業協会)の「バッテリ関連Q&A集」(http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm)もあわせてご覧ください。
- 二次電池をリサイクルとして排出するまでのご注意
  - 電池パックは分解しないでください。
  - 雨など水にぬれないように保管してください。
  - 炎天下に放置しないでください。
- 不要となった二次電池は、持ち込み拠点へお持ちください。詳しくは、NEC環境ホームページ(http://www.nec.co.jp/eco/ja/business/recycle/battery/)をご覧ください。

使用上の注意

- バッテリが十分に充電されている場合は、特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
- 充電を行う際にはできるだけ満充電するようにしてください。バッテリ残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリ残量に誤差が生じることがあります。
- SSDやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、SSDやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。
- バッテリ残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリリフレッシュを実行してください。

参照 バッテリリフレッシュについて→「バッテリリフレッシュ」(p.44)

- 本機を長期間使用しない場合は、バッテリ残量を50%程度にしてバッテリパックを取り外し、涼しいところに保管しておくとバッテリの寿命を長くすることができます。
- バッテリだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 省電力機能について→「電源」(p.20)

- バッテリは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2〜3か月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリの使い方と設定

◎バッテリ残量の確認

バッテリ残量は次の方法で確認できます。

◆画面右下の通知領域で確認する

画面右下の通知領域にある、▯または▯の上にマウスポインタを合わせると、現在のバッテリ残量と電源プランが表示されます。

◆電源ランプで確認する

電源ランプの状態で、バッテリ残量を確認できます。

参照 電源ランプについて→「各部の名称」の「表示ランプ」(p.18)

◎ バッテリ残量による動作の設定

バッテリ残量が一定の値以下になったときに通知したり、自動的に省電力機能を使用するように設定できます。

チェック!!

- 工場出荷時の状態では、バッテリ残量が10%以下になったときに通知し、5%以下になったときに再度通知し、自動的に休止状態になるように設定されています。
- バッテリ残量による動作は、電源プランごとに設定します。

バッテリ残量による動作の設定を変更するには、次の手順で行います。

1. 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
2. 「システムとメンテナンス」をクリックし、「電源オプション」をクリック
3. 設定を変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリック
4. 「詳細な電源設定の変更」をクリック
5. 「バッテリ」をダブルクリック

6 「バッテリ」以下に表示される項目で設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

- **バッテリ切れの操作**
  バッテリ残量が「バッテリ切れのレベル」以下になったときに行う動作を設定します。
- **バッテリ低下のレベル**
  バッテリ残量がここで設定した値以下になると、「バッテリ低下の操作」を開始します。
- **バッテリ切れのレベル**
  バッテリ残量がここで設定した値以下になると、「バッテリ切れの操作」を開始します。
- **バッテリ低下の通知**
  バッテリ残量が「バッテリ低下のレベル」以下になったときに通知するかどうかを設定します。
- **バッテリ低下の操作**
  バッテリ残量が「バッテリ低下のレベル」以下になったときに行う操作を設定します。

7 「OK」ボタンをクリック

以上で設定の変更は完了です。

◎ バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなったときは

バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなった場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

● ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。バッテリ充電ランプが点灯し、バッテリの充電が始まります。また、バッテリを充電しながら本機を使用できます。

● ACコンセントが使えない場合

本機を休止状態にするか、使用中のアプリケーションを終了して本機の電源を切ってください。

バッテリ残量が少ない状態で、ACコンセントから電源を供給しないまま本機を使用していると、バッテリ残量に応じて電源プランで設定されている動作が実行されます。

充電のしかた

チェック!!

- バッテリの充電中は、バッテリパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- 購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ず満充電してから使用してください。

◎ バッテリの充電のしかた

本機にバッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電が始まります。
本機の電源を入れて使用していても充電されます。

メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18〜28℃での充電をおすすめします。

参照 バッテリの充電時間について→『はじめにお読みください』の「10 付録 機能一覧」

◎ 充電状態を表示ランプで確認する

バッテリの充電状態を、バッテリ充電ランプ（▭）で確認することができます。

参照 バッテリ充電ランプについて→「各部の名称」の「表示ランプ」（p.18）

バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュは、一時的に低下したバッテリの性能を回復させるときに行います。次のような場合には、バッテリリフレッシュを実行してください。

- バッテリでの駆動時間が短くなった
  バッテリを完全に使い切らない状態で充電を繰り返していると、バッテリの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これを「バッテリのメモリ効果」と呼びます。
- 購入直後や長期間、バッテリを使用しなかったため、バッテリの性能が一時的に低下した
- バッテリの残量表示に誤差が生じている

◎ バッテリリフレッシュの実行

メモ

本機は、添付の「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」でWindows上からバッテリリフレッシュを実行することができます。

参照 バッテリ・リフレッシュ&診断ツールについて→「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」(p.49)

BIOSセットアップユーティリティからバッテリリフレッシュを実行するには、次の手順で行います。

1. 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
2. バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける
3. 本機にACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
4. バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリパックを本体から外して、再度取り付ける
5. バッテリを満充電(バッテリ充電ランプが消灯した状態)まで充電する
6. 本機の電源を入れて「NEC」ロゴの画面が表示されたら【F2】を押す
   BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3 システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて」(p.132)

7 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

8 「Exit」メニューの「Battery Refresh」を選択し、【Enter】を押す

9 【Enter】を押す
バッテリリフレッシュが始まります。

チェック!!
バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

バッテリリフレッシュが完了しバッテリ内の電力がなくなると、自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

以上でバッテリリフレッシュは完了です。

◎ バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断するには、次の方法があります。

◆【Esc】を押す
本機が再起動します。

◆【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押す
本機が再起動します。

◆電源スイッチを押す
本機の電源が切れます。

バッテリパックの交換

◎ 交換の目安

満充電(バッテリを充電してバッテリ充電ランプが消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュを行ってください。それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

参照 **バッテリリフレッシュについて→「バッテリリフレッシュ」**(p.44)

本機のバッテリスロットに取り付けられる交換用バッテリパックは次の 通りです。

モデル	バッテリパック
UltraLite **タイプ**VS	PC-VP-BP62(**バッテリパック**(M)(**リチウムイオン**)) PC-VP-BP63(**バッテリパック**(L)(**リチウムイオン**))

チェック!!

バッテリは消耗品です。充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。

◎ バッテリパックの交換のしかた

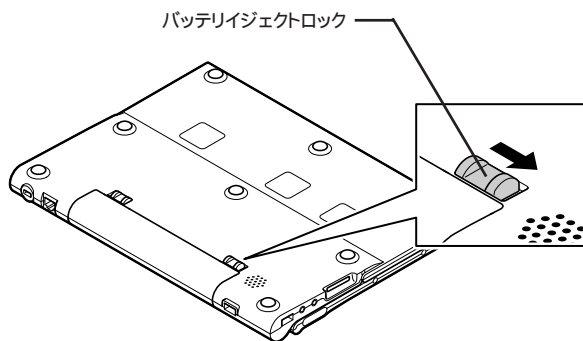
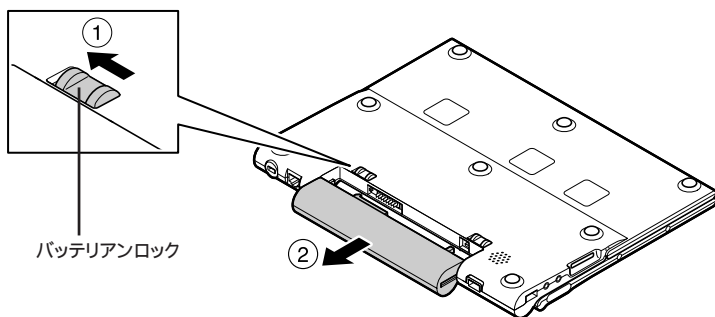
チェック!!

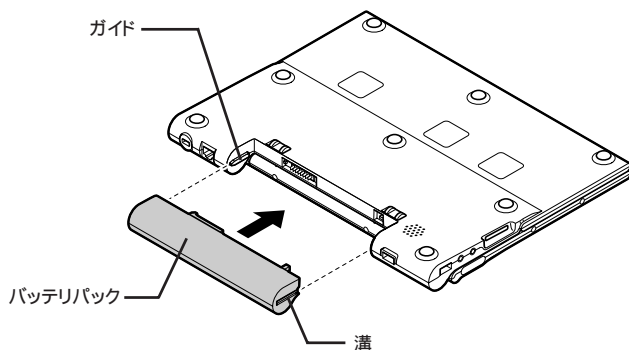
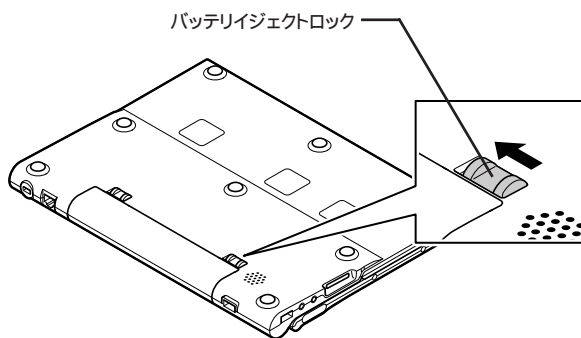
- **バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因になります。**
- **電源が入っているときや、スリープ状態にバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(⏻)が点滅しているときには、一度スリープ状態から復帰し、作業中のデータを保存してから**Windows**を終了し、本機の電源を切ってください。**
- **特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。**

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから引き抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 **バッテリイジェクトロックを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除する**

5 **バッテリアンロックを矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリパックを矢印の方向にスライドさせる**

6 **新しいバッテリパックの両側の溝と本体のガイドを合わせて、矢印の方向にゆっくりとスライドさせ、カチッと音がするまでしっかり取り付ける**

取り付けるときは、バッテリパックの向きに注意してください。

7 **バッテリイジェクトロックを矢印の方向にスライドさせ、バッテリパックをロックする**

以上でバッテリパックの交換は完了です。

バッテリ・リフレッシュ&診断ツール

「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を使用することで、バッテリリフレッシュと性能診断、バッテリリフレッシュと診断の自動実行、バッテリの充電量(充電モード)の設定ができます。

チェック!!

- 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」は工場出荷時にはインストールされていません。
- インストールにはDVD/CDドライブが必要です。
- インストールは管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。

参照 「「ユーザー アカウント制御」について」(p.6)

◎ バッテリ・リフレッシュ&診断ツールのインストール

「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」のインストールは、次の手順で行います。

1 DVD/CDドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットする

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

3 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
<DVD/CDドライブ名>:¥NECBATT¥Setup.exe

4 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール セットアップ ウィザードへようこそ」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

5 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール ファイル使用中」画面が表示された場合は、「NEC Battery Refresh Utility-Scheduler(Process Id: XXXX)」をクリックし、「継続」ボタンをクリック

6 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

7 **再起動を促すメッセージが表示された場合は、DVD/CDドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出し、「はい」ボタンをクリック**

Windowsが自動的に再起動します。

チェック!!

メッセージが表示されない場合は、DVD/CDドライブから「アプリケーション CD-ROM」を取り出し、Windowsを再起動してください。

以上で「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」のインストールは完了です。

◎ バッテリ・リフレッシュ&診断ツールの起動

バッテリ・リフレッシュ&診断ツールの起動は次の手順で行います。

1 **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」→「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」をクリック**

2 **バッテリリフレッシュや性能診断についての概要を説明する画面が表示された場合は、「次へ」ボタンをクリック**

メモ

- 「起動時にこの画面を表示しない」にチェックを付けてから「次へ」ボタンをクリックすると、概要説明画面を次の起動時から表示しなくなります。
- 概要説明画面は、「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を起動して、「はじめにお読みください」ボタンをクリックしても表示されます。

バッテリ・リフレッシュ&診断ツールや診断結果については、バッテリ・リフレッシュ&診断ツールを起動し、「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されるヘルプをご覧ください。

◎ バッテリリフレッシュと性能診断を実行する

バッテリリフレッシュと性能診断は、次の手順で行います。

バッテリリフレッシュと性能診断を行う場合には、本機にバッテリとACアダプタが接続されている必要があります。

1 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を起動する

2 「今すぐ開始」ボタンをクリック

確認画面が表示されます。

3 内容を確認し、「はい」ボタンをクリック

バッテリリフレッシュが開始します。
バッテリリフレッシュ終了後、性能診断が行われます。

メモ

確認画面、および実行中の画面で「終了後、自動的にスリープ状態にする」にチェックを付けると、バッテリリフレッシュと性能診断が終了した後、本機がスリープ状態になります。

チェック!!

バッテリリフレッシュを中断する場合は、「中止」ボタンをクリックし、画面の指示に従ってください。また、バッテリリフレッシュを中断した場合、性能診断は行われません。

◎ バッテリリフレッシュと性能診断を自動実行する

バッテリリフレッシュと性能診断の自動実行は、次の手順で設定します。

チェック!!

バッテリリフレッシュと性能診断を自動実行する場合には、設定した時間に本機が以下の状態であることが必要です。

- ACアダプタとバッテリが接続されている。
- 電源がシャットダウンされていない(起動中、スリープ状態、および休止状態の場合は実行可能です)。
- 管理者権限を持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーアカウントでログオンしている。
- 管理者権限を持ち、Windowsログオンパスワードを持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーアカウントでログオンしている。

1 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を起動する

2 「次回開始時間の設定」ボタンをクリック

3 「次回の実行日時を指定する」を選択し、実行時間を設定する
必要に応じて以下の項目も設定してください。

- **「Windowsログオンパスワード」**
  Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、この欄にパスワードを入力する
- **「終了後、自動的にスリープ状態にする」**
  自動実行終了後、本機をスリープ状態にする場合にはチェックを付ける

チェック!!

管理者権限を持たないユーザーで設定を行っている場合、「Windowsログオンパスワード」欄は表示されません。

4 「OK」ボタンをクリック

以上でバッテリリフレッシュと性能診断の自動実行の設定は完了です。

◎ バッテリの充電量(充電モード)を設定する

本機では、次の手順でバッテリの充電量を設定することができます。

メモ

充電モードには「フル充電モード」、「8割充電モード」、「5割充電モード」があり、それぞれの充電量までバッテリが充電されます。

1 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を起動する

2 「充電モードの設定」ボタンをクリック

3 「フル充電モード」「8割充電モード」「5割充電モード」から充電モードを選択する

4 「OK」ボタンをクリック

以上でバッテリの充電量の設定は完了です。

◎ バッテリ・リフレッシュ&診断ツールのアンインストール

バッテリ・リフレッシュ&診断ツールのアンインストールは、次の手順で行います。

チェック!!

- アンインストールは管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。

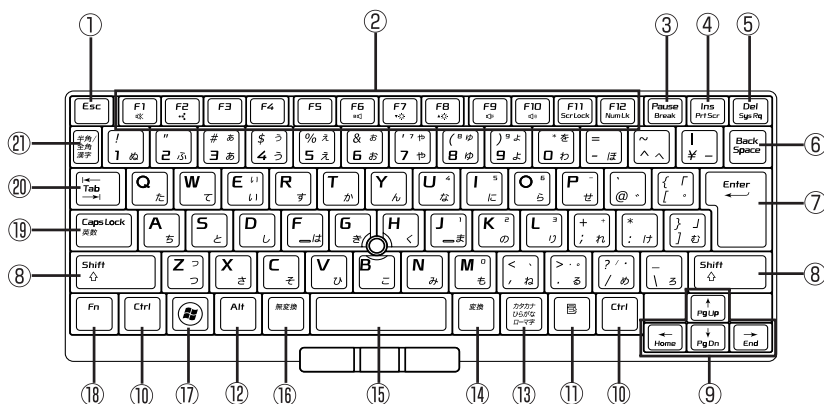
参照 「「ユーザー アカウント制御」について」(p.6)

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
2. 「プログラム」にある「プログラムのアンインストール」をクリック
3. 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック
4. 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツールをアンインストールしますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上でバッテリ・リフレッシュ&診断ツールのアンインストールは完了です。

キーボード

本機のキーボードのキーの名称や、キーの使い方について説明しています。

キーの名称

① 【Esc】: **エスケープキー**

② 【F1】〜【F12】: **ファンクションキー**

③ 【Pause】: **ポーズキー**

④ 【Ins】: **インサートキー**

⑤ 【Del】: **デリートキー**

⑥ 【Back Space】: **バックスペースキー**

⑦ 【Enter】: **エンターキー(リターンキー)**

⑧ 【Shift】: **シフトキー**

⑨ 【↑】【↓】【→】【←】: **カーソル移動キー**

⑩ 【Ctrl】: **コントロールキー**

⑪ 【 】: **アプリケーションキー**

⑫ 【Alt】: **オルトキー**

⑬ **【カタカナ ひらがな】: かなキー**

⑭ **【変換】: 変換キー**

⑮ **スペースキー**

⑯ **【無変換】: 無変換キー**

⑰ 【 】: Windows**キー**

⑱ 【Fn】: **エフエヌキー**

⑲ 【Caps Lock】: **キャップスロックキー**

⑳ 【Tab】: **タブキー**

㉑ **【半角/全角】: 半角/全角キー**

キーの使い方

◎ 日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには【半角/全角】または【Caps Lock】を押します。

MS-IMEで入力を行う際の操作方法について、詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

- MS-IMEのヘルプ
  MS-IMEの言語バーの「ツール」→「ヘルプ」→「目次とキーワード」をクリック

◎ ホットキー機能（【Fn】の使い方）

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。
組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは【Fn】と同じ色でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機能	説明
【Fn】＋【F1】	音声のオン／オフ（ミュート機能）	音声のオン／オフを切り替えます。
【Fn】＋【F2】	ワイヤレススイッチ（）	キーを押すごとに、無線LAN機能のオン／オフを切り替えます。詳しくは、「節電設定ツール」（p.32）をご覧ください。
【Fn】＋【F4】※2※3	ECOボタン	キーを押すごとに電源設定を切り替えます。詳しくは「ECOモード機能」（p.35）をご覧ください。
【Fn】＋【F6】※1	ビープ音の調節（B）	ビープ音のオン／オフを設定します。
【Fn】＋【F7】※1※4	輝度を下げる（▼☼）	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します（8段階）。
【Fn】＋【F8】※1※4	輝度を上げる（▲☼）	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します（8段階）。
【Fn】＋【F9】	ボリュームを下げる（）	スピーカのボリュームを下げます。
【Fn】＋【F10】	ボリュームを上げる（）	スピーカのボリュームを上げます。
【Fn】＋【F11】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】＋【F12】※1	ニューメリックロック	一度キーを押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キーボードの一部をテンキーとして使用できます。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、通常の文字が入力できるようになります。
【Fn】＋【1】※2※5	ワンタッチスタートボタン	押すと登録してあるアプリケーションを起動できます。詳しくは「ワンタッチスタートボタン」（p.58）をご覧ください。
【Fn】＋【2】※2※5	ワンタッチスタートボタン	
【Fn】＋【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】＋【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】＋【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】＋【↑】	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】＋【↓】	Page Dn	【PgDn】の役割
【Fn】＋【←】	Home	【Home】の役割
【Fn】＋【→】	End	【End】の役割

※1：本機の電源を切ったり、再起動を行った場合、設定した内容は解除されます。
※2：ワンタッチスタートボタンを無効に設定している場合は動作しません。
※3：アプリケーションCD-ROMより「ECOモード設定ツール」をインストールする必要があります。
※4：スリープ状態や休止状態からの復帰時、設定した内容は解除されます。
※5：アプリケーションCD-ROMより「ワンタッチスタートボタンの設定」をインストールする必要があります。

キーボードの設定

Windowsでキーボードをより使いやすく設定することができます。設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

ワンタッチスタートボタン

本機のワンタッチスタートボタンの使い方や設定について説明しています。

ワンタッチスタートボタンを使う

本機は、「ワンタッチスタートボタンの設定」をインストールすることで、ワンタッチスタートボタン(【Fn】+【1】または【Fn】+【2】)を押してアプリケーションを起動するように設定できます。

◎「ワンタッチスタートボタンの設定」のインストール

「ワンタッチスタートボタンの設定」のインストールは、次の手順で行います。

チェック!!

- インストールにはDVD/CDドライブが必要です。
- インストールは管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。

参照 「「ユーザー アカウント制御」について」(p.6)

1 DVD/CDドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットする

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンド プロンプト」を右クリックし、「管理者として実行」をクリック

3 次のように入力して【Enter】を押す
<DVD/CDドライブ名>:¥NECMFK¥SETUPUTL.EXE

4 インストールが完了したら、DVD/CDドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出す

5 Windowsを再起動する

以上でワンタッチスタートボタンの設定のインストールは完了です。

インストール直後は「Windows® メール」や「インターネットエクスプローラ」が起動するように設定されています。

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で行います。

セーフモードなどWindowsのキーボードドライバが動作しない状態の場合は、ワンタッチスタートボタンの機能は使用できません。

ワンタッチスタートボタンの設定

ワンタッチスタートボタンの機能は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使用して設定することができます。
「ワンタッチスタートボタンの設定」では次の設定を行うことができます。

- ・それぞれのキーを押したときに起動するアプリケーションの変更
- ・ワンタッチスタートボタンの有効／無効の切り替え
- ・ボタン名の表示／非表示の切り替え

メモ

ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時」または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

◎「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリック

「ワンタッチスタートボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

メモ
画面右下の通知領域にあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照 ワンタッチスタートボタンの設定について→「ワンタッチスタートボタンの設定ヘルプ」

メモ
ワンタッチスタートボタンのヘルプを見るには、「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動し、「ヘルプ」ボタンをクリックしてください。

◎ アプリケーションを割り当てる

ここでは例としてワンタッチスタートボタン(【Fn】+【2】)に「メモ帳」を割り当てる方法を説明します。

チェック!!

- ショートカット(拡張子が.lnkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。
- 登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。
- アプリケーション名やフォルダ名に、環境依存文字が含まれている場合は正しく表示されません。また、登録しても起動することはできません。

1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

2 「ボタン設定」タブをクリックし、「Fn+2」の下の(単独)をクリック
「プログラム登録」ウィンドウが表示されます。

3 「スタートメニュー」タブをクリックし、「Programs」フォルダをダブルクリック

4 「Accessories」フォルダをダブルクリックし、「Notepad.lnk」を「プログラム1」ボックスにドラッグ&ドロップする

5 「OK」ボタンをクリック

6 「OK」ボタンをクリック
「ユーザデータの更新」ウィンドウが表示されます。

7 「はい」ボタンをクリック

◎ ワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替える

次の操作でワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替えることができます。

チェック!!

- ワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替える場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。管理者権限を持たないユーザーアカウントで行う場合は、管理者権限を持つユーザのパスワードが必要になります。
- ワンタッチスタートボタンを無効に設定すると、ECOボタン(【Fn】+【F4】)も無効になります。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。

参照 「「ユーザー アカウント制御」について」(p.6)

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリック

ワンタッチスタートボタンが無効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。

2 ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

3 再起動のメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効／無効が切り替わります。

◎ ボタン名の表示／非表示を切り替える

次の操作で、ワンタッチスタートボタンのボタン名の表示の表示／非表示を切り替えることができます。

1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

2 「オンスクリーン設定」タブをクリック

3 次の操作を行う

- **非表示に設定する場合**
  「オンスクリーンを表示する」のチェックを外す。
- **表示に設定する場合**
  「オンスクリーンを表示する」にチェックを付ける。

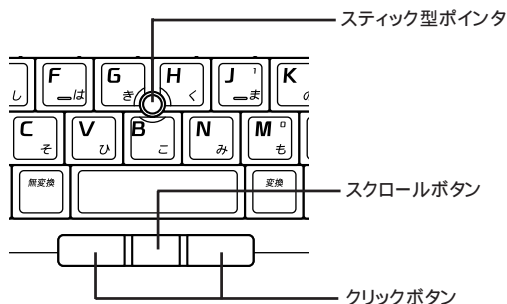
4 「OK」ボタンをクリック

「ユーザデータの更新」ウィンドウが表示されます。

5 「はい」ボタンをクリック

スティック型ポインタ

本機のスティック型ポインタの使い方や、スティック型ポインタドライバのアンインストールなどについて説明しています。

各部の名称と役割

各部の役割は、次の通りです。

◆スティック型ポインタ

ここを指で押して、ポインタの移動を行います。
スティック型ポインタをたたくことで、クリックと同じ操作をすることもできます。

◆クリックボタン

左右2つのボタンがあります。
これらのボタンでクリック、ダブルクリックなどの操作を行います。

◆スクロールボタン

このボタンを押したままスティック型ポインタを操作することで、画面のスクロールや、アプリケーションが対応している場合はズームを行うことができます。

スティック型ポインタの使い方

◎ クリック／ダブルクリック／ドラッグ

◆クリック

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせてから左のクリックボタンを1回押します。右のクリックボタンを押した場合は、右クリックの操作になります。

◆ダブルクリック

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせてから左のクリックボタンを2回続けてすばやく押します。

◆ドラッグ

ドラッグするときは、アイコンやフォルダの上にポインタを合わせ、左のクリックボタンを押したままスティック型ポインタで操作します。

メモ

スティック型ポインタを軽くたたくとクリックと同じ操作になります。また、2回続けてすばやくスティック型ポインタをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。スティック型ポインタを軽くたたいてクリックやダブルクリックの操作をすることを「タップ」「ダブルタップ」と呼びます。

◎ スクロールボタンを使用したスクロール／ズーム

本機では、スクロールボタンを使用することで、スティック型ポインタで画面を上下左右にスクロールさせたり、拡大／縮小させたりすることができます。

- スクロールやズームの機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。
- 工場出荷時の状態では、マウスポインタの下にあるウィンドウに対して、ズームや拡大／縮小の操作を行う設定になっています。「マウスのプロパティ」で、選択しているウィンドウに対して操作を行う設定に変更できます。

◆スクロールボタンを使用してスクロールさせる

スクロールバーが表示されているアプリケーションのウィンドウにマウスポインタを合わせ、スクロールボタンを押したままスティック型ポインタを操作することで、画面を上下左右にスクロールさせることができます。

◆ スクロールボタンを使用して拡大／縮小を行う

拡大／縮小の操作を行いたいアプリケーションのウィンドウにマウスポインタを合わせ、スクロールボタンとキーボードの【Ctrl】を押したままスティック型ポインタを操作します。スティック型ポインタをどちらに操作すれば拡大／縮小が行われるかは、アプリケーションにより異なります。

スティック型ポインタの設定

スティック型ポインタのボタンやポインタの動作、拡張機能の設定は「マウスのプロパティ」で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」にある「マウス」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」の各タブをクリックし、スティック型ポインタの設定ができます。

◎ スティック型ポインタの拡張機能を使用する

スティック型ポインタには次のような拡張機能があります。

・タップを右クリックとして使用する
・キーボードからの入力時に、タップやボタンの入力を無効にする
・スクロールボタン使用時の対象を変更する

これらの拡張機能を使用するには、「マウスのプロパティ」の「スティック」タブで「設定」ボタンをクリックし、表示される「スティックの設定」画面で次のように設定します。

◆ タップを右クリックとして使用する

「タップを使用する」にチェックを付け、「詳細設定」ボタンをクリックし、「タップの動作」の「タップを右クリックとして使用する」にチェックを付けます。

◆ キーボードからの入力時に、タップやボタンの入力を無効にする

「詳細設定」ボタンをクリックし、「タイピング」の「キー入力時のタップまたはボタン入力を無効にする」にチェックを付けます。

◆ スクロールボタン使用時の対象を変更する

「中央ボタン押下でスクロールを行う」にチェックを付け、「ポインタの下にあるウィンドウをスクロールする」または「選択されているウィンドウをスクロールする」から選択します。

スティック型ポインタドライバのアンインストール

他社製のUSBマウスを使用する際など、スティック型ポインタドライバをアンインストールする場合は、次の手順で行ってください。

1 **「デバイス マネージャ」を開き、「マウスとそのほかのポインティング デバイス」をダブルクリック**

参照 **「デバイス マネージャ」の開き方→「デバイス マネージャの開き方」**(p.6)

2 **「NEC Pointing-device」をダブルクリック**
「NEC Pointing-deviceのプロパティ」が表示されます。

3 **「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリック**
「ドライバの更新」が表示されます。

4 **「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」をクリック**

5 **「コンピュータ上のデバイス ドライバの一覧から選択します」をクリック**

6 **「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリック**

チェック!!

- 「モデル」欄に「標準 PS/2 ポート マウス」が表示されていない場合は、「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外し、「製造元」欄から「(標準マウス)」を選択し、「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」を選択してください。
- 「モデル」欄に「標準 PS/2 ポート マウス」が複数表示されている場合は、一番上の「標準 PS/2 ポート マウス」を選択してください。

必要なファイルがコピーされます。
「ドライバソフトウェアが正常に更新されました。」と表示されます。

7 **「閉じる」ボタンをクリック**

8 「閉じる」ボタンをクリック
「システム設定の変更」が表示されます。

9 「はい」ボタンをクリック
Windowsが再起動します。

以上でスティック型ポインタドライバのアンインストールは完了です。

スティック型ポインタドライバの再インストール

他社製のUSBマウスなどを使用する際に、スティック型ポインタのドライバを「標準 PS/2 ポートマウス」に変更した場合、スティック型ポインタのみを使用する設定に戻すには、スティック型ポインタドライバを再インストールしてください。

チェック!!

- 使用中のアプリケーションがある場合は、すべて終了しておいてください。
- スティック型ポインタドライバをインストールする場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)でログオンしてください。

1 「デバイス マネージャ」を開き、「マウスとそのほかのポインティングデバイス」をダブルクリック

参照 「デバイス マネージャ」の開き方→「デバイス マネージャの開き方」(p.6)

2 現在使用しているマウスをダブルクリック

3 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリック

4 「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」をクリック

5 「コンピュータ上のデバイス ドライバの一覧から選択します」をクリック

6 「ディスク使用」ボタンをクリック

7 「C:¥DRV¥StickPointer」と入力し、「OK」ボタンをクリック

8 「モデル」欄から「NEC Pointing-device」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

「NEC Pointing-device」が複数表示されている場合は、一番上の「NEC Pointing-device」を選択してください。

必要なファイルがコピーされます。
この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。
コピーが完了すると、「ドライバソフトウェアが正常に更新されました。」と表示されます。

9 「閉じる」ボタンをクリック

10 「閉じる」ボタンをクリック

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

再起動後、スティック型ポインタの拡張機能が有効になります。

再起動後、ポインタが動かない場合はWindowsキー( )を押して「スタート」メニューを表示させ、Windowsを再起動してください。項目の変更はカーソル移動キー(【↑】【↓】【→】【←】)、項目の選択は【Enter】で行うことができます。

SSD

本機のSSDの使用上の注意などについて説明しています。

使用上の注意

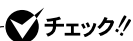
SSDは非常に精密に作られています。次の点に注意して使用してください。

- SSDのデータを破損させる外的な要因には次のようなものがあります。
  - 高熱
  - 落雷
- SSDが故障すると、記録されているデータが使用できなくなる場合があります。特に、自分で作成したデータは再セットアップしても元には戻りません。重要なデータはCD-RなどのSSD以外の媒体に、定期的にバックアップをとることをおすすめします。
- SSDの領域の作成や削除、フォーマットは「コンピュータの管理」の「ディスクの管理」から行います。
- 本機のSSDには、「ディスクの管理」でドライブ番号が割り当てられていない領域が表示される場合があります。この領域は再セットアップ時に必要になる「再セットアップ領域」やAlways アップデートエージェントを起動させるための領域ですので、「ディスクの管理」から削除などの操作を行わないでください。

参照

- ディスクの管理→Windowsのヘルプ
- 「再セットアップ領域」の削除→『活用ガイド　再セットアップ編』の「PART2 付録」
- Always アップデートエージェントの削除→「アプリケーションCD-ROM」の「ALWAYSUA」フォルダの「Readme.pdf」

◎ SSDのデータを保護する

◆FlyFolder

FlyFolderは、工場出荷時にはインストールされていません。

FlyFolderを使用することで、データファイルをオンラインストレージやファイルサーバ、外部記憶媒体などに自動的にバックアップすることができます。

参照 「セキュリティ機能／マネジメント機能」の「セキュリティ機能」（p.107）

SSDのメンテナンス

本機には、SSDの障害を検出するためのメンテナンスソフトが組み込まれています。
SSDに障害があった場合、可能な範囲で修復することができます。

参照 SSDのメンテナンスについて→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「メンテナンスと管理」の「SSDのメンテナンス」の「その他のメンテナンス」

フロッピーディスクドライブ

本機のフロッピーディスクドライブの使用上の注意や使い方などについて説明しています。
FDDモデルをお使いの場合のみご覧ください。

使用上の注意

- 「コンピュータ」などでフォーマットしていないフロッピーディスクを選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、アクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブが故障したり、データに不具合が発生したりする場合があります。
- フロッピーディスクに飲み物などをこぼした場合は使用しないでください。
- フロッピーディスクは、利用するときにだけフロッピーディスクドライブに入れてください。フロッピーディスクを長期間フロッピーディスクドライブに入れたままで使用すると、ほこりがたまり、読み書きエラーが発生する場合があります。
- 同じフロッピーディスクを連続して使用しないでください。連続使用によりフロッピーディスクに劣化が生じ、読み書きエラーが発生する場合があります。

◎ フロッピーディスクドライブを制限する

本機では、USBフロッピーディスクドライブを使用するため、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限でUSBコネクタを制限することで、フロッピーディスクの利用を制限することができます。
また、添付のDeviceProtectorを使用することで、フロッピーディスクドライブの有効／無効の設定や、書き込みを制限することができます。

参照 「セキュリティ機能／マネジメント機能」の「セキュリティ機能」(p.107)

フロッピーディスクドライブの取り付け

FDDモデルでフロッピーディスクを使用する場合は、添付のフロッピーディスクドライブをUSBコネクタに取り付けてください。

USB**コネクタ使用時の注意や機器の取り付け/取り外し→「**PART2 **周辺機器の利用」の「**USB**コネクタ」(**p.127**)**

各部の名称と役割

チェック!!

フロッピーディスクドライブのアクセスランプ点灯中は電源スイッチやフロッピーディスクイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因になります。

使用できるフロッピーディスクの種類

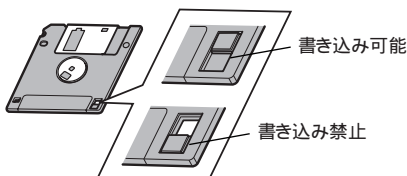
フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類の媒体があります。本機で読み書き、またはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×
	720KB	○	×
2HD	1.2MB	○	×
	1.44MB	○	○

参照 フロッピーディスクのフォーマット→Windowsのヘルプ

メモ
- 未使用のフロッピーディスクをフォーマットするには多少時間がかかります。
- 1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておくことをおすすめします。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。

DVD/CDドライブ

本機のDVD/CDドライブの使用上の注意や使い方などについて説明しています。
DVD/CDモデルをお使いの場合のみご覧ください。

使用上の注意

- DVD/CDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。データの破損や本機の故障の原因になります。
- アクセスランプの点灯中は、DVD/CDドライブのケーブルを抜かないでください。データの破損や本機の故障の原因となる場合があります。また、ケーブルが抜ける原因となるので、アクセスランプの点灯中にDVD/CDドライブや本機を移動させないでください。
- ディスクの信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないように注意してください。
- 本機で、次のような規格外や異なったサイズのディスクは使用できません。無理に使用した場合、再生や作成ができないだけでなく、破損の原因になる場合があります。

  - AVCHD形式のDVD、AVCREC形式のDVD
  - 名刺型、星型などの円形ではない、異形ディスク
  - 厚さが薄いDVD
  - 規格外に容量の大きな書き込み媒体

  また、特殊な形状のディスクや、ラベルがはってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、ディスク使用時に異音や振動が発生する場合があります。このようなディスクは故障の原因になるため、使用しないでください。
- DVD/CDドライブにディスクをセットすると、「自動再生」画面が表示される場合があります。その場合は、実行したい操作をクリックしてください。実行したい操作がない場合は、ウィンドウの右上の［x］をクリックしてください。
- DVDやCDに飲み物などをこぼした場合、そのDVDやCDは使用しないでください。

◎ DVD/CDドライブを制限する

本機は、USB DVD/CDドライブを使用するため、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限でUSBコネクタを制限し、DVD/CDドライブの利用を制限することができます。
また、添付のDeviceProtectorを使用することで、DVD/CDドライブの有効／無効の設定や、書き込みを制限することができます。

参照 「セキュリティ機能／マネジメント機能」の「セキュリティ機能」(p.107)

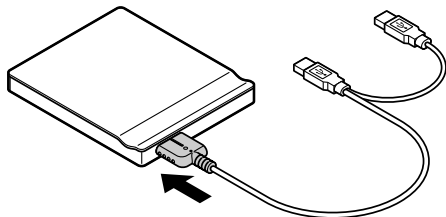
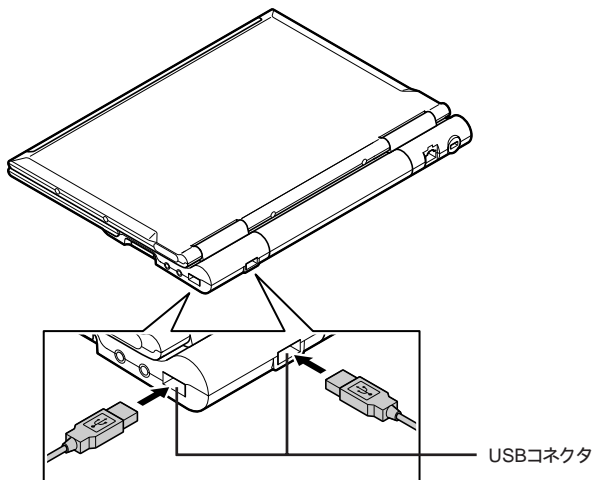
DVD/CDドライブの取り付け

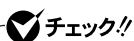
本機でCDやDVDを使用する場合は、添付または別売のDVD/CDドライブを接続する必要があります。
添付または別売のDVD/CDドライブは次の通りです。

- DVD-ROMドライブ(PC-VP-BU44)(添付または別売)
- DVDスーパーマルチドライブ(PC-VP-BU42)(添付または別売)

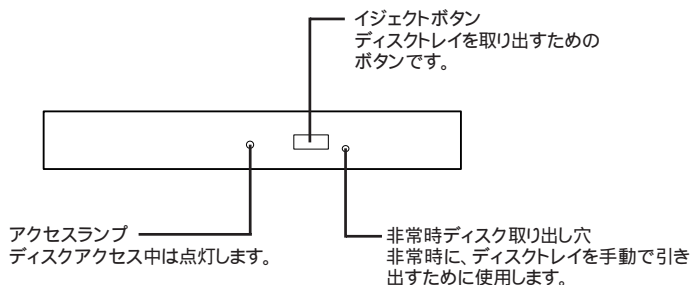
◎ 接続のしかた

DVD/CDドライブをお使いになるには、以下の手順で本機に接続してください。

1 DVD/CDドライブ背面に、DVD/CDドライブ用ケーブルの○マークのある方のプラグに接続する
プラグの向きに注意して、差し込んでください。

2 **図のように、**DVD/CD**ドライブ用ケーブルを、本機の**USB**コネクタ(•⇌)に接続する**
プラグの向きに注意して、差し込んでください。

参照 USB**コネクタ使用時の注意→「**PART2 **周辺機器の利用」の「**USB**コネクタ」（**p.127**）**

各部の名称と役割

チェック!!

アクセスランプ点灯中は電源スイッチやイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因になります。

メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによってイラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

お使いのモデルにより、添付のDVD/CDドライブで使えるディスクは異なります。それぞれのモデルのDVD/CDドライブで使用できるディスクについては、『はじめにお読みください』の「10 付録 機能一覧」をご覧ください。

メモ ディスクの規格

DVD、CDの規格には次の表に記載されているようなものがあります。

規　格	概　要
CD-ROM	パソコンで見るためのデータが入っているCDです。
CD-R CD-RW	データを書き込むことができるCDです。CD-RWはデータを繰り返し書き換えることができます。CD-Rでは書き込んだデータの書き換えや、削除はできません。
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式で記録された動画用のCDです。
フォトCD	写真を最大100枚まで記録できる追記型のCDです。
音楽CD	一般の音楽CDのことです。音楽CDの一種で、音楽CDにパソコンで見ることができる文字や画像が記録されている「CD Extra」があります。
DVD-ROM	パソコンで見るためのデータが入っているDVDです。CD-ROMの約7倍(片面一層の場合)のデータ容量があります。
DVD-Video	MPEG2という圧縮方式で記録された動画用のDVDです。
DVD-R DVD+R	データを書き込むことができるDVDです。書き込んだデータの書き換えや、削除はできません。
DVD-R DL	片面二層のDVD-Rです。片面一層のDVD-Rの約2倍のデータ容量があります。
DVD+R DL	片面二層のDVD+Rです。片面一層のDVD+Rの約2倍のデータ容量があります。
DVD-RW DVD+RW	データを繰り返し書き換えたり、追記できるDVDのことです。
DVD-RAM	データを繰り返し書き換えたり、追記できるDVDのことです。カートリッジに入ったディスクや、両面に記録できるディスクもあります。両面タイプのディスクでは、約9.4GBのデータを記録できます。

◎ DVDディスク利用時の注意

- 記録用のDVDディスクには、録画用(for Video)とデータ用(for Data)とがありますので、ご購入の際にはご注意ください。

- DVD-RAMには、カートリッジなしのディスクと、TYPE1(ディスク取り出し不可)、TYPE2(ディスク取り出し可能)、TYPE4(ディスク取り出し可能)の4種類があります。本機のDVD/CDドライブでは、カートリッジなし、またはカートリッジからディスクを取り出せるタイプ(TYPE2、TYPE4)のみご利用になることができます。ご購入の際には、ご注意ください。
- 片面2.6GBのDVD-RAMおよび両面5.2GBのDVD-RAMは、読み込みのみ可(書き込み、フォーマット不可)。カートリッジから取り出せないタイプのDVD-RAMディスクは使用できません。
- 両面9.4GBのDVD-RAMディスクは面ごとに4.7GBの記録／再生が可能です。同時に両面への記録／再生はできません。ディスクを取り出して、裏返して使用してください。

読み込みと再生

本機のDVD/CDドライブで、読み込みや再生ができるディスクについては、『はじめにお読みください』の「10 付録 機能一覧」をご覧ください。
また、DVD/CDモデルでDVD-Videoを再生するには、添付の「WinDVD for NEC」を使用してください。

チェック!!

- WinDVD for NECは、工場出荷時にはインストールされていません。
- インストールにはDVD/CDドライブが必要です。
- WinDVD for NECで、DVDディスクやビデオCDの再生をする場合、再生するディスクの種類によってはコマ落ちが発生することがあります。
- WinDVD for NECでは音楽CDおよびDVD-Audioの再生はできません。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」の「WinDVD for NEC」

◎ ディスク再生時の注意

本機でCDやDVDの読み込みや再生を行うときは、次のことに注意してください。

- 本機で記録したCDやDVDを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。
- 他の機器で記録したCDやDVDは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により、本機では再生および再生性能を保証できない場合があります。

- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や取り込みができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示すマークの入ったディスクを使用してください。
- CD（Compact Disc）規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、リージョンコード（国別地域番号）が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- 本機で再生できるCDまたはDVDのディスクサイズは8センチと12センチです。
- WinDVD for NECをインストールしていても、Windows Media PlayerからDVD-Videoの再生を行うことはできません。DVD-Videoの再生を行う場合は、WinDVD for NECで行ってください。
- DVD-Videoディスクや動画を再生する際は、再生に使用するアプリケーション以外のソフトウェアを終了することをおすすめします。本機での動画再生には高い処理能力が必要とされ、お使いのモデルや設定によっては、複数のアプリケーションを実行している状態で動画再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。詳しくは、『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「表示」をご覧ください。
- 「ECOモード機能」で、省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVD-Videoディスクや動画の再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。

参照　「ECOモード機能」（p.35）

- モニタの設定で、画面のリフレッシュレートを40ヘルツに変更できますが、WinDVD for NECでの動作は保証しておりません。40ヘルツに設定すると、映像再生時にコマ落ち等が発生する場合があります。

  そのような場合は、画面のリフレッシュレートを60ヘルツに戻して使用してください。
- 本機でDVD-Videoディスクを再生する場合、次のことに注意してください。
  - DVD-Videoディスクの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音飛びが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。DVD-Videoディスクの再生中は、再生画面の上に他のウィンドウを重ねないでください。

- DVD-Videoディスクの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVD-Videoディスクの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。

書き込みとフォーマット

DVDスーパーマルチモデルで、DVDやCDへの書き込み、書き換え、およびフォーマットをするには、「Roxio Creator LJB」が必要です。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Roxio Creator LJB」

メモ

DVDやCDへの書き込みはWindows Vistaの機能でも行うことができます。選択可能な各フォーマットの説明についてはWindowsのヘルプをご覧ください。

◎ ご注意

- 書き込みに失敗したDVDやCDは読み込みできなくなります。書き損じによるディスク、およびディスクに記録されていたデータの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうかを確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のDVD/CDドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。

非常時のディスクの取り出し方

停電やソフトウェアの異常動作などにより、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこないときは、太さ1.3mm程の針金を非常時ディスク取り出し穴に押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。
針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

- DVD/CD**ドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこないといった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使用してディスクを取り出さないでください。**
- **強制的にディスクを取り出す場合は、本体から**DVD/CD**ドライブを取り外してから行ってください。**

SDメモリーカードスロット

SDメモリーカードスロットの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

使用上の注意

- Windows上で「SDメモリーカード」のフォーマットやデフラグを行わないでください。各メモリーカード対応機器との互換性や性能などで問題が生じる場合があります。
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所では「SDメモリーカード」を使わないでください。
- 「SDメモリーカード」などの取り扱いについては、各メモリーカードに添付のマニュアルの指示に従ってください。
- 本機や「SDメモリーカード」の不具合により、音楽データの録音ができなかったり、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の補償はいたしかねます。
- お客様が画像、音楽、データなどを記録(録画・録音などを含む)したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 大切なファイルはコピーして、バックアップを取ることをおすすめします。
- データの保存中にスリープ/休止状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。
- 本機がスリープ/休止状態にあるときは、メモリーカードを抜き挿ししないでください。また、スリープ/休止状態から復帰する際は、Windowsのログオン画面またはデスクトップ画面が表示されるまでメモリーカードを抜き挿ししないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になる場合があります。
- すべての「SDメモリーカード」の動作を保証するものではありません。
- さまざまな規格のメディアがありますので、本機のSDメモリーカードスロットで使えるメディアかどうかや、メディアの使用方法をお確かめになり、お使いください。
- メモリーカードの端子面が汚れていると、メモリーカードを認識しなかったり、データの読み込み、書き出しができないことがあります。端子面が汚れた場合は、メモリーカードに添付のマニュアルをご覧になり、処置してください。

- メモリーカードにデータを保存中、または読み込み中に、PCカードなどの周辺機器を接続しないでください。
- CDやDVDを再生中にメモリーカードへの読み書きを行ったり、メモリーカード内の音声や動画ファイルを再生中にファイルのコピーを行うと、音声や動画がとぎれるなどの影響が出る場合があります。

◎「SDメモリーカード」を使用するときの注意

- 「SDメモリーカード」は、標準フォーマットとして、それぞれ「SDメモリーカード」規格に準拠したフォーマットで出荷されており、すぐにお使いになれます。
- フォーマットが必要な場合は、デジタルカメラやSD Audio Playerなど「SDメモリーカード」に対応した機器や、SD規格に対応したソフトウェアでフォーマットを行ってください。
- 「miniSDカード」「microSDカード」を使用するときは、必ず使用するメモリーカードに対応した、SDサイズのアダプタに装着してからセットしてください。詳しくはお使いのメモリーカードの取扱説明書をご覧ください。
- 「microSDカード」をご使用の際、miniSDサイズのアダプタに装着し、さらにSDサイズのアダプタに装着しての動作は保証しておりません。
- 本機では、2Gバイトまでの「SDメモリーカード」で動作確認を行っています。2Gバイトを超える容量の「SDメモリーカード」での動作は保証しておりません。
- 本機は、「SDHCメモリーカード」には対応していません。
- 本機は、SDIOには対応していません。
- 「マルチメディアカード(MMC)」は使用できません。
- 裏面に通電性(電気を通す性質)がある金属が使用されているSDメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。本機内部のコネクタと接触し本機やメモリーカードの故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。

◎ SDメモリーカードスロットを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限でSDメモリーカードスロットの有効/無効を設定できます。また、添付のDeviceProtectorでも、SDメモリーカードスロットへの書き込みを制限することができます。

参照 「セキュリティ機能/マネジメント機能」の「セキュリティ機能」(p.107)

セットのしかたと取り出し方

◎ セットのしかた

チェック!!

- ダミーカードがセットされている場合は、セットをする前に「取り出し方」をご覧になり、ダミーカードを取り出してください。
- miniSDカード、およびmicroSDカードも使用できます。ただしSDサイズのアダプタが必要になります。詳しくは、「使用上の注意」(p.83)をご覧ください。

1 「SDメモリーカード」を向きに注意して、SDメモリーカードスロットに奥までしっかり差し込む

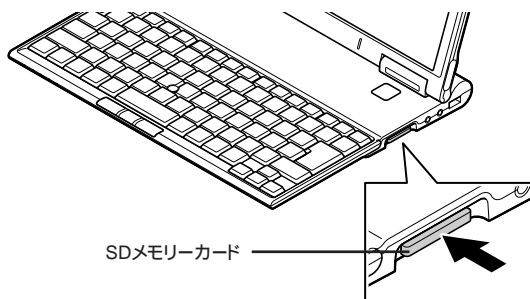
◎ 取り出し方

チェック!!

SDメモリーカードスロットアクセスランプ点灯中は、絶対に「SDメモリーカード」を取り出さないでください。スロットやカードの故障、データの破損の原因となります。

1 「PART2 周辺機器の利用」の「周辺機器利用上の注意」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.118)の手順1〜3を行う

2 「SDメモリーカード」を押す

「SDメモリーカード」が飛び出します。

3 「SDメモリーカード」を水平に引き抜く

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示の調整や表示できる解像度と表示色、表示に関する機能の設定などについて説明しています。

使用上の注意

- 液晶ディスプレイは非常に高精度な技術で作られていますが、色調のズレなど個体差が発生する場合があります。これは液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。
- 本機は256色モードをサポートしておりません。256色モードを使用するアプリケーションは動作できない場合があります。
- OpenGLのアプリケーションを使用した場合、アプリケーションによっては、画面が表示されない、または画面の表示が乱れることがあります。
- DVD-Videoディスクの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音切れ、およびデスクトップ上のアイコンのちらつきが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。
- DVD-Videoディスクの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVD-Videoディスクの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。
- Windowsの状態によっては、スクリーンセーバー動作時に液晶ディスプレイの電源がオフにならない場合があります。
- 各種ベンチマークが正常に実行できない場合があります。
- ベンチマークなどの、負荷の高いアプリケーションを実行すると、一瞬画面が暗くなり「ドライバの応答停止と回復」と表示される場合があります。その場合は、必要なデータを保存後、アプリケーションを終了し、本機を再起動することをおすすめします。
- 動画を再生するアプリケーションを起動しているときは、表示色や解像度の変更を行わないでください。
- 動画を再生するアプリケーションによっては、画質が低下する場合があります。

画面表示の調整

◎ 表示を調整する

本機では、キーボードから、一時的に輝度を調整できます。輝度は8段階で調整することができます。

機能	キー操作	説明
輝度を下げる▼☼	【Fn】+【F7】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が下がります。
輝度を上げる▲☼	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が上がります。

キーボードからの調整や、Windows モビリティセンターの機能で一時的に設定した輝度は、本機の電源を切ったり再起動した場合や、スリープ状態や休止状態からの復帰時に解除されます。
本機の起動時や、スリープ状態や休止状態からの復帰時の輝度を調整する場合は、次の手順で行ってください。

メモ
本機の起動時や、スリープ状態や休止状態からの復帰時の輝度は、電源プランごとに設定されます。次の手順では、現在使用中の電源プランの設定のみ変更されます。

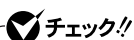
参照 「電源」の「省電力機能の設定」(p.29)

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとメンテナンス」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 左のメニューから「ディスプレイの輝度を調整」をクリック

4 表示される画面で「ディスプレイの輝度を調整」の値を変更し、「変更の保存」ボタンをクリック

表示できる解像度と表示色

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度(ドット)	表示色	本機の液晶ディスプレイにのみ表示※2
800×600	65,536色	○
	1,677万色※1	○
1,024×768	65,536色	○
	1,677万色※1	○
1,280×768	65,536色	◎
	1,677万色※1	◎

○ ：拡大表示(ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能)
拡大表示では文字や線などの太さが不均一になることがあります。
実サイズ表示では画面中央に実サイズで表示され、まわりは黒く表示されます。

◎ ：フルスクリーン表示可能

※1：本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。

※2：モニタの設定で、画面のリフレッシュレートを40ヘルツに変更できますが、40ヘルツに設定すると、マウスカーソル移動の飛び、表示性能の低下や表示のみだれ、ちらつき、および動画再生のコマ落ち等が発生する場合があります。
そのような場合は、画面のリフレッシュレートを60ヘルツに戻して使用してください。

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチ機能とは、液晶ディスプレイの解像度よりもWindowsの解像度設定が低い場合に、液晶ディスプレイに画面イメージを拡大して表示する機能です。
ディスプレイストレッチ機能を使う場合は次の手順で行います。

ディスプレイストレッチ機能を使用して拡大表示を行っている場合、表示される文字などの線の太さが不均一になることがあります。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デスクトップのカスタマイズ」をクリックし、「個人設定」をクリック

3 「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」ボタンをクリック

4 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」タブをクリックし、「グラフィック プロパティ」ボタンをクリック

5 「ディスプレイ設定」をクリック

6 「MID」タブの「アスペクト比のオプション」ボタンをクリック

7 「全画面表示(枠なし)」を選択し、「OK」ボタンをクリック

8 「OK」ボタンをクリック

9 「OK」ボタンをクリック

10 「OK」ボタンをクリック

設定が有効になり、ディスプレイストレッチ機能が使用できます。

サウンド機能

本機の音量の調節や、サウンド機能に関する設定などについて説明しています。

音量の調節

◎ 音量ミキサを使う

Windowsの「音量ミキサ」で音量を調節することができます。

1 画面右下の通知領域の🔊(音量)をクリック

2 表示されたウィンドウから「ミキサ」をクリック
「音量ミキサ」が表示されます。

3 調節したいデバイスやアプリケーションのスライドで音量を調節する

参照 音量ミキサについて→Windowsのヘルプ

◎ キーボードで調節する

【Fn】+【F10】を押すと音量を大きく、【Fn】+【F9】を押すと音量を小さく調節することができます。

◆ 音声のオン／オフ(ミュート機能)

【Fn】+【F1】を押すと、音声のオン／オフを切り替えることができます。

参照 【Fn】について→「キーボード」の「キーの使い方」の「ホットキー機能(【Fn】の使い方)」(p.55)

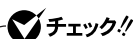
◎ ビープ音のオン／オフを切り替える

【Fn】+【F6】を押すと、システムブザーのビープ音のオン／オフを切り替えることができます。

参照 【Fn】について→「キーボード」の「キーの使い方」の「ホットキー機能(【Fn】の使い方)」(p.55)

◎ 録音音量の調節

本機で録音音量を調節する場合は次の手順で行ってください。

1. マイクなどの録音機器を接続する
2. 画面右下の通知領域の（音量）を右クリックし、表示されたメニューから「録音デバイス」をクリック
3. 使用する録音デバイスをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック

チェック!!

録音デバイスが複数ある場合は、使用するデバイスをクリックし、「既定値に設定」ボタンをクリックしてください。

4. 「レベル」タブをクリックし、表示される画面で録音音量を調節する
5. 「OK」ボタンをクリック
6. 「OK」ボタンをクリック

LAN(ローカルエリアネットワーク)

本機のLAN機能を使用する際の注意や設定などについて説明しています。

LANへの接続

本機には、以下のLAN機能が搭載されています。

	1000BASE-T/100BASE-TX /10BASE-T (ギガビットイーサネット対応)	100BASE-TX/10BASE-T
UltraLite タイプVS	◎	—

◎:標準装備

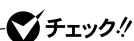
メモ

1000BASE-Tまたは100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境にも接続できます。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやLANケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

◎ LANの設置

初めてネットワークシステムを設置するためには、配線工事などが必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

◎ 接続方法

本機をネットワークに接続するには、別売のLANケーブルが必要です。LANケーブルは、10BASE-Tで接続するにはカテゴリ3以上、100BASE-TXで接続するにはカテゴリ5以上、1000BASE-Tで接続するにはエンハンスドカテゴリ5以上のLANケーブルを使用してください。
また、ネットワーク側のコネクタに空きがない場合、ハブやスイッチでコネクタを増やす必要があります。
LANケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定とLANケーブルの接続を行ってください。

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、LANケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にLANケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windows を再起動してください。
- LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ネットワークの通信中にはスリープ状態または休止状態にしないでください。
- ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。

  あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

◎ ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE（米国電気電子技術者協会）で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。
次のコマンドを入力することで、内蔵LANまたはワイヤレスLANのユニバーサル管理アドレスを確認することができます。
コマンド プロンプトで次のいずれかのコマンドを入力し、【Enter】を押してください。

net config workstation
（アダプタがアクティブな場合、「アクティブなネットワーク（ワークステーション）」という項目の（　）内に表示されます。）

ipconfig /all
（アダプタごとに「物理アドレス」として表示されます。）

LANの設定

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。

参照 必要な構成要素の詳細について→Windowsのヘルプの中にあるネットワーク関連の項目

◎ ネットワーク接続のセットアップ

- 工場出荷時は、ネットワークプロトコル（TCP/IP）が設定されています。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。

参照 「「ユーザー アカウント制御」について」（p.6）

1 「スタート」ボタン→「ネットワーク」をクリック

2 メニューバーの「ネットワークと共有センター」をクリック

3 「タスク」欄にある「ネットワーク接続の管理」をクリック

4 「ローカルエリア接続」をダブルクリック

5 「ネットワーク」タブで必要な構成要素の設定をする

メモ
必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

6 「OK」ボタンをクリック

以上でネットワーク接続のセットアップは完了です。
続いて、コンピュータ名などの設定を行います。

◎ 接続するネットワークとコンピュータ名の設定

接続するネットワークに関する設定と、ネットワークで表示されるコンピュータ名を設定します。

チェック!!
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。

参照 「「ユーザー アカウント制御」について」(p.6)

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとメンテナンス」をクリックし、「システム」をクリック

3 「タスク」欄の「システムの詳細設定」をクリック

4 「コンピュータ名」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリック

5 「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に必要な情報を入力する

メモ
入力する情報がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

6 「OK」ボタンをクリック
確認のメッセージが表示されます。

7 「OK」ボタンをクリック

8 「閉じる」ボタンをクリック

9 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「今すぐ再起動する」ボタンをクリック
本機が再起動します。

以上でLANの設定は完了です。

リモートパワーオン機能（Remote Power On機能）の設定

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能は次の通りです。

・電源の切れている状態から電源を入れる
・スリープ状態や休止状態からの復帰

本体およびLANボードがリモートパワーオンに対応しているパソコンで、リモートパワーオン機能を使うように設定している場合は、本体の電源が切れているときも、LANボードの一部は通電されています。
管理者パソコンはパワーオンを指示する特殊なパケット（Magic Packet）を離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコン（本機）の専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理者パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。リモートパワーオン機能を利用するためには、管理者パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア（WebSAM Client Managerなど）のインストールが必要です。
また、本機のBIOS設定が必要になります。

チェック!!

- 前回のシステム終了（電源を切る、スリープ状態にする、休止状態にする）が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindowsを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- サポートする速度が1000Mbpsのみのハブではリモートパワーオン機能は使用できません。10M/100M/1000M Auto-negotiation機能を搭載したハブを使用してください。
- リモートパワーオン機能の設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリの消費量が大きくなります。バッテリ駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、リモートパワーオン機能の設定は行わずに購入時の設定で使用してください。
- リモートパワーオン機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機を休止状態または電源が切れている状態にしてください。

◎ 電源の切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

電源が切れている状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、次の設定を行ってください。

1 本機の電源を入れて「NEC」ロゴの画面が表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3 システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて」（p.132）

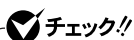
2 「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Setup」にある「Resume On LAN」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

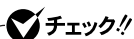
4 「Ok」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

チェック!!

必要に応じて、起動時のパスワードの設定も行ってください。

参照 **起動時のパスワードの設定→**
「PART3 **システム設定」の「設定項目一覧」の「「**Security**」メニュー」**(p.138)

以上で設定は完了です。

◎ スリープ状態または休止状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

チェック!!

以下の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator**権限)を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。**

1 「デバイス マネージャ」を開き、「ネットワークアダプタ」をダブルクリック

参照 **「デバイス マネージャ」の開き方→「デバイス マネージャの開き方」**(p.6)

2 表示されたLANアダプタをダブルクリック

3 「電源の管理」タブをクリック

4 次の項目にチェックを付ける

- 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

5 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

ネットワークブート機能(PXE機能)

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

- OSインストール
- BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- BIOS設定変更

チェック!!

ネットワークブートを使用するには、別途PXEに準拠した運用管理ソフトが必要です。

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 本機の電源を入れて「NEC」ロゴの画面が表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3 システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて」(p.132)

2 「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Setup」で、「Network Boot Agent」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Ok」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

5 「NEC」ロゴの画面が表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

6 「Boot」メニューの「Boot Device Priority」の「1st Boot Device」～「4th Boot Device」のどれかに「Network:XXXX」を設定する

7 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

8 「Ok」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でネットワークブートを使用するための設定は完了です。

メモ

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、本機起動時に「NEC」ロゴの画面で【F12】を数回押すことでネットワークブートが可能になります。

チェック!!

【F12】を押しても、ネットワークブートができないことがあります。この場合は、【F12】を押す間隔を変えてください。

LAN機能のオン／オフ

本機では、「節電設定ツール」を使用することで、通知領域のアイコンからLAN機能のオン／オフを簡単に切り替えることができます。

参照 「電源」の「節電設定ツール」(p.32)

無線LAN機能

本機の無線LAN機能の概要について説明しています。
無線LANモデルをお使いの場合のみご覧ください。

使用上の注意

- 通信速度・通信距離は、無線LAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- 電波の性質上、通信距離が離れるに従って通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、無線LAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- ネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイント(以下アクセスポイント)などが必要です。
- 医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。
- 海外で本機を使用する場合は、現地国の法令などに抵触する可能性がありますので、本機の無線LAN機能をオフにしてください。
- ネットワークとの通信中は、本機を休止状態やスリープ状態にしないでください。
- ネットワーク通信をすると、バッテリのみで使用可能な時間が短くなります。長時間の通信をするときは、本機にACアダプタを接続しコンセントからの電源で使用してください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
・IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
・メールの内容
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
・コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

本機で設定できるセキュリティ

チェック!!

- 次のセキュリティについての設定をする場合、使用するアクセスポイントなどもこれらの設定に対応している必要があります。
- これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。

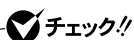
◎ 盗聴(傍受)を防ぐ

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間の無線LANの通信のデータを暗号化できます。
ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをおすすめします。

◎ 不正アクセスを防ぐ

- アクセスポイントと通信機器の両方に任意のSSID(ネットワーク名)を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、第三者にSSIDを自動的に検出する機能を持った機器を使用されると、SSIDを知られてしまいます。これを回避するには、アクセスポイント側でSSIDを通知しないように、SSIDの隠ぺいの設定をする必要があります。
- 接続するパソコンなどのMACアドレス(ネットワークカードが持っている固有の番号)をアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外はアクセスポイントに接続できなくなります(MACアドレスフィルタリング)。

◎ より高度なセキュリティ設定を行う

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA(Wi-Fi Protected Access)機能やWPA2機能を利用します。IEEE802.1X/EAP(Extensible Authentication Protocol)規格によるユーザ認証、従来のWEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号方式TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)やAES(Advanced Encryption Standard)を使用することで、より高度なセキュリティ設定を行うことができます。

WPAやWPA2による暗号化を使用するには、接続する相手の機器も同じセキュリティ機能に対応している必要があります。

無線LAN製品との接続

本製品と接続できる無線LAN製品には、無線LAN内蔵PC、無線LANアクセスポイント、無線LAN周辺機器などがあります。

無線LAN機器同士の接続互換性については、業界団体Wi-Fi Allianceによる「Wi-Fi®」認定を取得している同じ規格の製品を購入されることをおすすめいたします。

無線LAN機能のオン／オフ

本機では、「節電設定ツール」を使用することで、キーボードや通知領域のアイコンから無線LAN機能のオン／オフを簡単に切り替えることができます。
また、Windowsの「ワイヤレスネットワーク接続」でも無線LAN機能のオン／オフができます。

参照

- 「電源」の「節電設定ツール」(p.32)
- 「VersaPro/VersaPro J 電子マニュアル」の「無線LAN機能」の「「無線LAN(IEEE802.11b/g)」について」

無線LANの設定

「VersaPro/VersaPro J 電子マニュアル」の「無線LAN機能」の「「無線LAN(IEEE802.11b/g)」について」をご覧になり、設定を行ってください。

セキュリティ機能／マネジメント機能

本機で利用可能なセキュリティ機能およびマネジメント機能について説明しています。

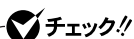
セキュリティ機能／マネジメント機能について

システム管理者の効率のよい運用のため、本機には次のセキュリティ機能やマネジメント機能があります。

> **チェック!!**
> - **お使いのモデルによっては使用できない場合があります。詳しくは各機能の説明をご覧ください。**
> - **工場出荷時にインストールされていない機能やアプリケーションのインストールには、DVD/CDドライブが必要です。**

- **スーパバイザパスワード／ユーザパスワード**
- **ハードディスクパスワード機能**
- I/O**制限**
- **盗難防止用ロック**
- DEP(Data Execution Prevention)**機能**
- **ウイルス検出・駆除**
- **暗号化ファイルシステム**(EFS)
- FlyFolder
- SecureRedirector
- DeviceProtector
- **リモートパワーオン機能**(Remote Power On**機能**)
- **ネットワークブート機能**(PXE**搭載**)

セキュリティ機能

本機には、機密データの漏えいや改ざんを防止したり、コンピュータウイルスの侵入を防ぐために、次のようなセキュリティ機能があります。

チェック!!

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

◎ スーパバイザパスワード／ユーザパスワード

BIOSセットアップユーティリティの使用者を制限し、また本機の不正使用を防止するための機能です。

メモ

・スーパバイザパスワードは、BIOSセットアップユーティリティの起動や本機の起動を制限するためのパスワードです。
・ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードと同じくBIOSセットアップユーティリティの起動や本機の起動を制限するためのパスワードです。
また、ユーザパスワードでBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定できる項目が制限されます。本機の管理者と使用者が異なるときに、使用者が設定変更してしまうことを防止する場合などに有効です。

◆BIOSセットアップユーティリティの使用者の制限

スーパバイザパスワード／ユーザパスワードを設定すると、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示されます。
スーパバイザパスワードまたはユーザパスワードを入力しない限り、BIOSセットアップユーティリティは起動できません。また、ユーザパスワードを入力して起動した場合は、設定可能な項目が制限されます。

◆本機の不正使用の防止

スーパバイザパスワード／ユーザパスワードを設定し、BIOSセットアップユーティリティで「Password Check」を「Always」に変更してください。
本機の起動時にパスワード入力画面が表示され、起動するにはスーパバイザパスワードまたはユーザパスワードの入力が必要になります。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3 システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて」(p.132)

チェック!!

- ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードが設定されてなければ設定できません。
- NECに本機の修理を依頼される際は、設定してあるパスワードは解除しておいてください。
- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れてしまった場合、有償での解除処置となります。詳しくは『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「電源を入れたとき」の「パスワードを忘れてしまった」をご覧ください。

◎ ハードディスクパスワード機能

本機のSSDにハードディスクパスワードを設定することで、本機のSSDを本機以外のパソコンに取り付けて使用するときにパスワードの入力が必要になり、不正使用や重要なデータの漏えいを防止できます。

ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードの2つがあります。

◆ ハードディスクマスタパスワード

ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。

◆ ハードディスクユーザパスワード

本機とSSDの認証を行うためのパスワードです。
ハードディスクユーザパスワードを設定することで、本機のSSDが本機以外のパソコンで不正使用されることを防止できます。

参照 「PART3 システム設定」の「設定項目一覧」の「「Security」メニュー」(p.138)

- ハードディスクユーザパスワードは、ハードディスクマスタパスワードが設定されていなければ設定できません。
- ハードディスクパスワードは、本機のSSDが本機以外のパソコンで不正使用されることを防止するためのものであり、本機の不正使用を防止するものではありません。本機のデータへの不正アクセスを防止するためにも、本機の他のセキュリティ機能とあわせてお使いください。
- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除または無効にしておいてください。また、起動できずにパスワードを解除または無効にできない場合は、修理から戻ってきた際に、使用していたマスタパスワードとユーザパスワードを再設定してください。
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックの解除はできません。SSDに保存されているデータは二度と使用できなくなり、SSDも有償で交換することになります。ハードディスクパスワードは忘れないように十分注意してください。

◎ I/O制限

本機では、BIOSセットアップユーティリティで外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用できないように制限することができます。
この機能を利用することで、部外者のデータアクセスや、システムに影響を及ぼすアプリケーションのインストールを制限することができます。
本機では、次のI/Oを制限することができます。

- フロッピーディスクドライブ※1
- DVD/CDドライブ※2
- SDメモリーカードスロット
- USBコネクタ

※1：本機ではUSBフロッピーディスクドライブを使用するため、USBコネクタを制限することで、フロッピーディスクの使用を制限します。
※2：本機ではUSB DVD/CDドライブを使用するため、USBコネクタを制限することでDVD/CDドライブの使用を制限します。

参照 「PART3 システム設定」の「設定項目一覧」の「「Advanced」メニュー」（p.136）

◎ 盗難防止用ロック

別売のセキュリティケーブル(PC-VP-WS15)を利用することで、本機を机などに繋ぐことができますので、本機の盗難防止に効果的です。

参照 盗難防止用ロックについて→「各部の名称」(p.14)

> チェック!!
>
> 当社製セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)は本機では使用できませんので注意してください。

◎ DEP(Data Execution Prevention)機能

不正なプログラムやデータの実行をハードウェア的に防止する機能です。コンピュータウイルスが不正にプログラムコードを書き込んだり、実行しないようにすることができます。

◎ ウイルス検出・駆除

> ウイルスバスターおよびAlways アップデートエージェントは、工場出荷時にはインストールされていません。

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「ウイルスバスター」を使用します。
また、Always アップデートエージェントを使用し、Windowsの起動前にウイルスパターンファイルのアップデートを行うことができるため、従来よりもウイルス感染の危険性を低減できます。

参照
- ウイルスバスター→
『活用ガイド　ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」の「ウイルスバスター」
- Always アップデートエージェント→
「アプリケーションCD-ROM」の「ALWAYSUA」フォルダの「Readme.pdf」

◎暗号化ファイルシステム(EFS)

ハードディスク暗号化ユーティリティは、工場出荷時にはインストールされていません。

EFS(Encrypting File System)は、Windows Vista Businessの標準ファイルシステムであるNTFSが持つファイルやフォルダの暗号化機能です。暗号化を行ったユーザ以外、データ復号化が行えないため、高いセキュリティ効果をもたらすことが可能です。また、「ハードディスク暗号化ユーティリティ」を使用することにより、暗号化ファイルシステムを簡単に設定することができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」の「ハードディスク暗号化ユーティリティ」

◎ FlyFolder

FlyFolderは、工場出荷時にはインストールされていません。

FlyFolderは、お客様が作成したドキュメントや画像などのデータファイルをオンラインストレージやファイルサーバ、外部記憶媒体などに自動的にバックアップするソフトウェアです。
また、バックアップしたデータファイルをローカルディスク上にリストアすることもでき、複数台のPCでデータファイルを共有することができます。

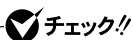
参照 「アプリケーションCD-ROM」の「FlyFolder¥manual」フォルダの「FlyFolder User's Manual.pdf」

◎ SecureRedirector

- SecureRedirectorは、SecureRedirector選択時のみ添付されています。
- SecureRedirectorは、工場出荷時にはインストールされていません。

SecureRedirectorは、本機のSSDへドキュメントファイルなどを保存しようとした場合に、自動的にファイルサーバに保存します。本機のSSDにドキュメントファイルなどを保存しないため、情報の漏えい防止に効果があります。

参照 『SecureRedirectorモデルをお使いの方へ』

◎ DeviceProtector

DeviceProtectorは、工場出荷時にはインストールされていません。

DeviceProtectorは、各種周辺機器の使用を制限することができるアプリケーションです。USBメモリ、USBを使用して接続されたハードディスクなどの外部記憶装置を制限することで、情報の漏えい防止に効果的です。
DeviceProtectorでは、次のような機能を制限することができます。

- フロッピーディスクドライブ
- SDメモリーカードスロット
- USB機器

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」の「DeviceProtector」

マネジメント機能

本機には、システム管理者のパソコンからネットワークに接続された他のパソコンの電源やシステムを遠隔操作して管理するために、次のようなマネジメント機能があります。

◎ リモートパワーオン機能（Remote Power On機能）

LAN（ローカルエリアネットワーク）経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

参照
- 「LAN（ローカルエリアネットワーク）」の「リモートパワーオン機能（Remote Power On機能）の設定」（p.97）
- 「PART3 システム設定」の「設定項目一覧」の「「Advanced」メニュー」（p.136）

◎ ネットワークブート機能（PXE搭載）

クライアントPCのシステムが起動する前に管理者PCからOSなどをロードすることができます。別途、PXE（Preboot eXecution Environment）に準拠した運用管理ソフトウェアが必要です。

PART

2

周辺機器の利用

別売の周辺機器の取り付け／取り外し方法や注意事項などを説明しています。

この章の読み方

「周辺機器利用上の注意」(p.116)**、「接続できる周辺機器」**(p.120)**を読んだ後に、目的に合わせて次に該当するページを読んでください。**

この章の内容

周辺機器利用上の注意

接続前の確認

◎ 周辺機器の対応状況の確認

取り付ける周辺機器が本機で使えるかどうか、周辺機器のマニュアルで確認するか、製造元にお問い合わせください。なお、NEC製の周辺機器で接続可否の確認がとれているものについては、NECの「ビジネスPC」サイト(http://www.nec.co.jp/bpc/)から次の手順で確認してください。

1. NECの「ビジネスPC」サイトでビジネスPCユーザサポートの「サポート情報(ダウンロード)」をクリック
2. 「製品情報確認」にある「製品検索」をクリック
3. 「旧モデル検索(最新機種も含む)」にある「PC本体型番検索」をクリック
   お使いのモデルの型番で検索し、取り付け可能な周辺機器を確認してください。

◎ 周辺機器の取り付け/取り外し時の注意

- 周辺機器の取り付け/取り外しをする際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- 本機がスリープ状態または休止状態の場合は、周辺機器の取り付けや取り外しは行わないでください。このような場合は、いったん復帰させてデータを保存し、電源を切ってから取り付けや取り外しを行ってください。
- 周辺機器の取り付けや取り外しは、使用する周辺機器の取扱説明書に従って正しく行ってください。
- 周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえ用意してください。
- 周辺機器を使用する際は、使用する周辺機器の取扱説明書をご覧ください。

◎ リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。このような場合は「デバイス マネージャ」でリソースが競合しないように設定を変更してください。

参照 リソースの競合について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「周辺機器」

プラグ＆プレイについて

周辺機器の中には、デバイスドライバ（デバイスのためのソフトウェア）のインストールが必要なものがあります。

プラグ＆プレイとは、取り付けたハードウェアを自動的に検出してデバイスドライバをインストールする機能です。

新しいハードウェアを取り付けると、次に電源を入れたときにWindowsによって自動的に新たなハードウェアが検出され、必要に応じてデバイスドライバウィザードが起動されます。外付けの周辺機器を接続した場合は、本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

周辺機器にデバイスドライバのフロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されている場合は、周辺機器の取扱説明書の指示に従ってインストールしてください。

デバイスドライバのインストール

- 周辺機器によっては、デバイスドライバのインストールが必要な場合があります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、必要なデバイスドライバをインストールしてください。
- デバイスドライバをインストールした後、本機の再起動を求められた場合は、指示に従って再起動してください。
- デバイスドライバをインストールした後の再起動は、通常よりも時間がかかることがあります。正常に再起動されるまで電源は切らないでください。
- 最新のデバイスドライバがNECの「ビジネスPC」サイト（http://www.nec.co.jp/bpc/）で提供されている場合がありますので、定期的に確認してください。

メモ

修正モジュールやアップデートモジュールの情報は、次の手順で表示される「NECサポートプログラム」から検索できます。

1. NECの「ビジネスPC」サイトでビジネスPCユーザサポートの「サポート情報（ダウンロード）」をクリック
2. 「ダウンロード」の「モジュール、ドライバ」にある「各種アップデートモジュール」をクリック

周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器などは、本機の電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。
ただし、周辺機器によっては正しい手順で取り外しを行わないと、周辺機器に記録しているデータが破損したり、本機が正常に動作しなくなる場合があります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で行ってください。

1 画面右下の通知領域にあるをクリック

が表示されていない場合はをクリックし、隠されている通知領域のアイコンを表示してください。すべてのアイコンを表示してもがない場合は手順4に進んでください。

2 表示される「×××××を安全に取り外します」から、取り外す周辺機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。
表示される「×××××を安全に取り外します」に取り外す周辺機器がない場合は手順4に進んでください。

チェック!!

「Marvell sd8686 Wireless LAN SDIO Adapter」は取り外さないでください。誤って取り外しの操作をしてしまった場合は、ワイヤレススイッチ（【Fn】＋【F2】）で無線LAN機能のオン／オフを切り替えるか、本機を再起動してください。

3 「OK」ボタンをクリック

4 周辺機器を取り外す

以上で周辺機器の取り外しは完了です。

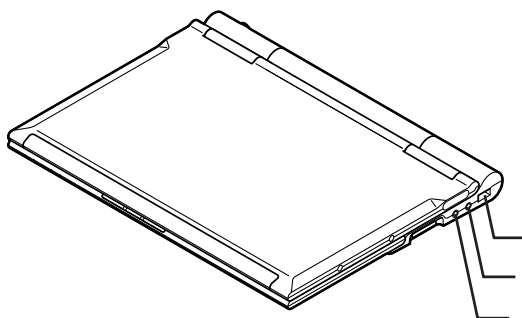
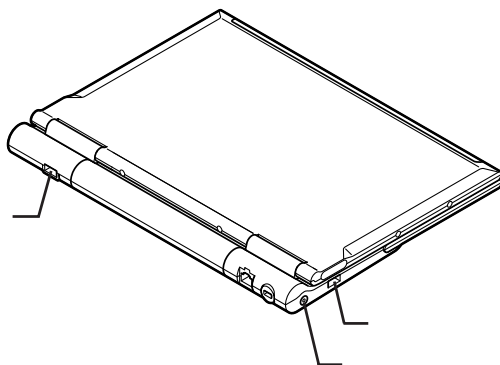
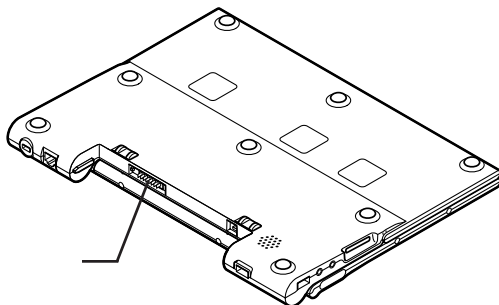
同じ周辺機器を再接続する場合は、デバイスドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージに従ってください。画面が止まったように見える場合は、しばらくお待ちください。

接続できる周辺機器

本体に接続できる周辺機器一覧

本機のそれぞれのコネクタや端子に接続できる周辺機器について説明します。

◎ UltraLite **タイプ**VS

◆ 本体前面／右側面

◆ 本体背面／左側面

◆本体底面

名称	接続できる周辺機器
①USBコネクタ	USBマウスなど
②マイク入力	マイクロフォンなど
③ライン/ヘッドフォン共用出力	ヘッドフォン、オーディオ入力のあるAV機器
④DCコネクタ	ACアダプタ
⑤バッテリスロット	バッテリパック

マウス

本機でマウスを使用する場合の設定について説明しています。

マウスを使用する

本機では、添付の光センサーUSBマウス(光センサーUSBマウス添付のモデルの場合)、USBマウス(USBマウス添付のモデルの場合)が使用できます。また、マウスが添付されていないモデルをお使いの場合でも、別売のUSBマウスを使用することができます。
マウスを使用する場合はマウスドライバの設定が必要です。また、マウスを使用するための設定を行った後、スティック型ポインタを使用する場合も設定が必要です。

チェック!!

光センサーUSBマウスは、マウス底面からの赤い光によって映し出される陰影をセンサーで検知することでマウスの動きを判断しています。そのため、次のようなものの上で使用した場合、操作した通りにマウスポインタが動かないなど、正常に動作しないことがあります。

- 鏡など反射しやすいもの
- ビニールやガラスなど、透明、半透明のもの
- 光沢のあるマウスパッドや机
- 雑誌や新聞の写真など網点の印刷物、同じパターンが連続しているもの
- 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの

マウスの設定方法

チェック!!

- **コンピュータの管理者権限(**Administrator**権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。**
- **マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやスティック型ポインタなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合は次のようにキーボードを使用して本機を再起動してください。**

  1. Windows**キー(****)を押す**
  2. **【→】を**3**回押す**
  3. **【↑】【↓】で表示されたメニューから「再起動」を選択し、【**Enter**】を押す**

- **マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**

◎添付または別売の当社製USBマウスを使用する

本機に添付のUSBマウスまたは別売(オプション)のUSBマウスを使用する場合は、特に設定を行う必要はありません。そのままUSBコネクタに接続してください。

チェック!!

- **本機では、当社製**USB**マウスとスティック型ポインタを同時に使用できます。**
- USB **マウス使用時にスティック型ポインタを無効にしたい場合は、** BIOS**セットアップユーティリティの「**Advanced**」メニューの「**Advanced Chipset Setup**」の「**Stick Pointer Device**」を「**Disabled**」に設定してください。**

参照 BIOS**セットアップユーティリティについて→「**PART3 **システム設定」の「**BIOS**セットアップユーティリティについて」(**p.132**)**

◎ 他社製のUSBマウスを使用する

本機で他社製USBマウスを使用する場合、スティック型ポインタドライバをインストールしているかどうかで手順が異なります。

チェック!!

- 本機では、他社製のUSBマウスとスティック型ポインタを同時に使用できます。ただし、他社製USBマウスを使用する場合は、スティック型ポインタドライバは使用できません。スティック型ポインタは「標準 PS/2 ポートマウス」ドライバで使用してください。
- 他社製USBマウスを使用する場合は、スティック型ポインタの拡張機能は利用できません。

●スティック型ポインタドライバをインストールしている場合

スティック型ポインタドライバをインストールしている場合には、次の手順で設定を行ってください。

1 スティック型ポインタドライバをアンインストールする

参照 スティック型ポインタドライバのアンインストール→「PART1 本体の構成各部」の「スティック型ポインタ」の「スティック型ポインタドライバのアンインストール」(p.66)

2 USBマウスを接続する

他社製のUSBマウスに、独自のデバイスドライバが添付されている場合には、他社製USBマウスのマニュアルをご覧になり、デバイスドライバをインストールしてください。

以上で設定は完了です。

●スティック型ポインタドライバをインストールしていない場合

スティック型ポインタドライバをインストールしていない場合には、使用する他社製USBマウスをそのままUSBコネクタに接続してください。
他社製USBマウスに、独自のデバイスドライバが添付されている場合には、他社製USBマウスのマニュアルをご覧になり、デバイスドライバをインストールしてください。

チェック!!

- **ポインタが動かなくなった場合は、【**Enter**】を押してください。**
- USB**マウス使用時にスティック型ポインタを無効にしたい場合は、**BIOS**セットアップユーティリティの「**Advanced**」メニューの「**Advanced Chipset Setup**」の「**Stick Pointer Device**」を「**Disabled**」に設定してください。**

参照
- **マウスドライバのインストール方法→マウスのマニュアル**
- BIOS**セットアップユーティリティについて→「**PART3**システム設定」の「**BIOS**セットアップユーティリティについて」(**p.132**)**

スティック型ポインタのみを使用する設定に戻す

マウスを取り外し、スティック型ポインタのみを使用する設定に戻す場合は、次の操作を行ってください。

チェック!!

- **マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**
- BIOS**セットアップユーティリティでスティック型ポインタを無効に設定している場合は、マウスを取り外す前に**BIOS**セットアップユーティリティの「**Advanced**」メニューの「**Advanced Chipset Setup**」の「**Stick Pointer Device**」を、「**Enabled**」に設定してください。**

● 当社製USBマウスを使用している場合

そのままUSBコネクタから取り外してください。

● 他社製USBマウス、またはシリアルマウスを使用している場合

1 マウスに添付のマウスドライバを使用している場合は、マウスドライバをアンインストールし、マウスを取り外す

参照 **マウスの取り外し、マウスドライバのアンインストール方法→マウスのマニュアル**

2 スティック型ポインタのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に設定する

スティック型ポインタのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に設定してください。すでにスティック型ポインタのドライバが「標準 PS/2 ポート マウス」に設定されている場合は、この手順は必要ありません。

参照 **スティック型ポインタのドライバを「標準 PS/2 ポートマウス」に設定する→「PART1 本体の構成各部」の「スティック型ポインタ」の「スティック型ポインタドライバのアンインストール」(p.66)**

チェック!!

スティック型ポインタの拡張機能を使用する場合は、スティック型ポインタのドライバを再インストールしてください。

参照 **スティック型ポインタドライバのインストール→「PART1 本体の構成各部」の「スティック型ポインタ」の「スティック型ポインタドライバの再インストール」(p.67)**

USBコネクタ

使用上の注意

- USB2.0の転送速度を出すにはUSB2.0対応の機器を接続する必要があります。また、USB2.0の機器をUSB1.1規格のハブで利用した場合はUSB1.1の転送速度に制限されます。
- 印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。
  なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。
- USB機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく抜き差ししたり斜めに差したりすると、信号が読み取れずに不明なデバイスとして認識されることがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、正しく接続し直してください。
- 初めてUSB機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- スリープ状態中、スリープ状態へ移行中、スリープ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB機器を抜き差ししないでください。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器(マウスまたはキーボード以外)を外してください。USB機器を接続した状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、USBハブを本機に接続してからUSB機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB機器が正常に認識されないことがあります。
- USB機器の有無にかかわらず「デバイス マネージャ」にある「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」は削除、無効にしないでください。

メ モ

- 本機でのUSB機器の動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECの「ビジネスPC」サイト(http://www.nec.co.jp/bpc/)から次の手順で確認してください。

  1. NECの「ビジネスPC」サイトでビジネスPCユーザサポートの「サポート情報(ダウンロード)」をクリック
  2. 「製品情報確認」にある「製品検索」をクリック
  3. 「旧モデル検索(最新機種も含む)」にある「PC本体型番検索」をクリック
     お使いのモデルの型番で検索し、取り付け可能なUSB対応機器を確認してください。

- 接続する機器によっては、接続ケーブルが必要な場合があります。

◎ USB機器を制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、USBコネクタの有効／無効を設定して、USB機器の使用を制限することができます。
また、添付のDeviceProtectorでも、USB機器の使用を接続するUSB機器単位で制限することができます。

参照 「PART1　本体の構成各部」の「セキュリティ機能／マネジメント機能」の「セキュリティ機能」(p.107)

接続する前に

機器によっては、接続する前や接続した後にドライバのインストールや、スイッチなどの設定が必要な場合があります。接続するUSB機器のマニュアルをご覧になり、ドライバなどのインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

メ モ

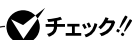
- 接続してすぐ使うことができるUSB機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性があります。必ず添付のマニュアルをよく読んでください。
- USB機器は、本機の電源を入れたままの状態でも接続できます。接続前に電源を切る必要はありません。

USB機器の取り付け

1 USBコネクタ( )にプラグを差し込む
USBコネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

接続したUSB機器が正しく本機に認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

◎ 外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。外付けUSBキーボードにUSBコネクタがある場合は、別売のUSB機器を取り付けることができます。

チェック!!
セーフモードで起動した場合は、外付けUSBキーボードは使用できません。

メモ
外付けUSBキーボードの設定は、本機のキーボードと同じようにWindowsで設定できます。

USB機器の取り外し

USB機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域に が表示されます。このような機器の取り外しは、 をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」で行います。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがありますので、「周辺機器利用上の注意」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.118)をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

PART

3

システム設定

BIOSセットアップユーティリティについて説明します。BIOSセットアップユーティリティでは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定できます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップユーティリティについて」を読んだ後に、目的に合わせてお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップユーティリティについて

BIOSセットアップユーティリティの操作や工場出荷時に戻す方法などについて説明しています。

BIOSセットアップユーティリティの起動

1 本機の電源を入れて「NEC」ロゴの画面が表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

チェック!!

BIOSセットアップユーティリティが表示されない場合は、【F2】を押す間隔を変えてください。

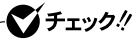
BIOSセットアップユーティリティの基本操作

チェック!!

BIOSセットアップユーティリティで設定を行っている間は、本機の電源スイッチで電源を切らないでください。電源を切る場合は、必ずBIOSセットアップユーティリティを終了し、Windows起動後にWindows上から電源を切る操作を行ってください。

- 操作はキーボードで行います。
- 【←】【→】でメニューバーのカーソルを選択し、【↑】【↓】で設定項目を選択します。設定内容の値は【＋】【－】で変更するか、【Enter】でポップメニューを表示して変更します。
- 設定内容（例：システム時刻の時、分、秒）のカーソル移動は【Tab】または【Enter】で選択します。時刻、日付の値は数字キーで入力できます。
- ▶印が付いた設定項目は【Enter】でサブメニューを表示し、【Esc】で元の画面に戻ります。

BIOSセットアップユーティリティの終了

チェック!!

BIOSセットアップユーティリティ終了後に電源を切る場合は、必ず、Windows起動後にWindows上から電源を切る操作を行ってください。

◆変更を保存して終了する

1 【F10】を押す
確認の画面が表示されます。
中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「Ok」が選択されていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が起動します。

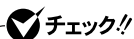
メモ
メニューバーの「Exit」で「Save Changes and Exit」を選択し、BIOSセットアップユーティリティを終了することもできます。

◆変更を保存せず終了する

1 キーボードの【←】【→】でメニューバーの「Exit」を選択する
メニューが表示されます。

2 キーボードの【↓】で「Discard Changes and Exit」を選択し、【Enter】を押す

3 「Ok」が選択されていることを確認して【Enter】を押す
設定値を変更せずにBIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が起動します。

工場出荷時の設定値に戻す

> **チェック!!**
> BIOSセットアップユーティリティ終了後に電源を切る場合は、必ず、Windows起動後にWindows上から電源を切る操作を行ってください。

設定を工場出荷時の値に戻すときは、次の手順で行ってください。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する

2 【F9】を押す
確認の画面が表示されます。
中止したいときは【Esc】を押してください。

3 「Ok」が選択されていることを確認して【Enter】を押す
工場出荷時の設定値を読み込みます。

4 【F10】を押す
確認の画面が表示されます。

5 「Ok」が選択されていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存されて、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が起動します。

以上で設定は完了です。

設定項目一覧

BIOSセットアップユーティリティで設定可能な項目について説明しています。設定値欄の【 】で囲まれた値は、工場出荷時の設定です。

「Main」メニュー

設定項目		設定値	説明
BIOS Version		―	BIOSのバージョンを表示します。
EC FW Version		―	ファームウェアのバージョンを表示します。
Product Name		―	型番を表示します。
Serial Number		―	製造番号を表示します。
System Time		―	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
System Date		―	現在の日付を「月/日/年」(西暦)で設定します。
Internal HDD	Device	―	接続されているデバイスのタイプを表示します。
	Vendor	―	デバイスの型番を表示します。
	Size	―	デバイスの容量を表示します。
	S.M.A.R.T.	Disabled 【Enabled】	S.M.A.R.T.機能を使用するかどうかを設定します。
CPU Type		―	CPUタイプを表示します。
CPU Speed		―	CPU速度を表示します。
System Memory		―	搭載されているメモリ容量を表示します。

「Advanced」メニュー

設定項目	設定値	説明
Advanced BIOS Setup	―	CPUの機能などの設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「Advanced BIOS Setup」をご覧ください。
Advanced Chipset Setup	―	本機の各種デバイスの設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「Advanced Chipset Setup」(p.137)をご覧ください。

◎ Advanced BIOS Setup

設定項目	設定値	説明
Silent Boot	Disabled 【Enabled】	ブート時の画面を設定します。 •「Disabled」:自己診断画面表示 •「Enabled」:ロゴ画面のみ表示
Fn/Left Ctrl key replacement	【Disabled】 Enabled	「Enabled」に設定すると、本体キーボードの【Fn】と【Ctrl】の機能を入れ替えます。
Hyper Threading Technology	Disabled 【Enabled】	Hyper Threading Technologyを有効にします。通常は「Enabled」で使用してください。
No-Execute Memory Protection	Disabled 【Enabled】	No-Execute Memory Protection機能を有効にします。この項目の設定は変更しないでください。
Intel(R) SpeedStep(tm) tech	Disabled 【Enabled】	「Enabled」に設定すると、Intel(R) SpeedStep(TM) technologyがOSやAppletにより制御され、システムは最適化された性能で動作します。 この項目の設定は変更しないでください。

◎ Advanced Chipset Setup

設定項目	設定値	説明
Stick Pointer Device	Disabled 【Enabled】	USBマウスを使用するときなど、スティック型ポインタを無効にしたい場合は、「Disabled」に設定します。
SD Card Slot	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、SDメモリーカードスロットが使用できなくなります。
Wireless LAN Device	【Disabled】 Enabled	ワイヤレスデバイスを使用する／使用しないを切り替えます。
USB 1.1 Controller	Disabled 【Enabled】	USB機能の有効／無効を設定します。「Disabled」に設定すると、本機のUSBコネクタが使用できなくなります。
USB 2.0 Controller※1	【Enabled】 Disabled	UBS2.0機能の有効／無効を設定します。
Legacy USB Support※1	Disabled 【Enabled】	USBレガシー機能の有効／無効を設定します。
USB Storage Device Support ※1※2	【Disabled】 Enabled	USBストレージデバイスのレガシーエミュレーションの有効／無効を設定します。
USB Storage Device Configuration※1※2※3※4	ー	接続されたUSBストレージデバイスのエミュレーションタイプを設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されるので、デバイスごとにエミュレーションタイプを設定してください。設定できるエミュレーションタイプは次の通りです。 ・「Auto」：接続されているデバイスを自動で判別し、エミュレートします。 ・「Floppy」：フロッピーディスクドライブとしてエミュレートします。 ・「Forced FDD」：強制的にフロッピーディスクドライブとしてエミュレートします。 ・「Hard Disk」：ハードディスクドライブとしてエミュレートします。 ・「CDROM」：DVD/CDドライブとしてエミュレートします。
Internal LAN	Disabled 【Enabled】	内蔵LANの有効／無効を設定します。
Network Boot Agent※5	Enabled 【Disabled】	ネットワークブート機能の有効／無効を設定します。
Resume On LAN ※5	【Disabled】 Enabled	「Enabled」に設定すると、LANによって電源をオンにすることができます。

設定項目	設定値	説明
Force Network Boot※5※6	【Disabled】 Enabled	「Enabled」に設定すると、LANによって電源がオンになったときに、起動順位の設定に関わらず、強制的にNetworkから起動します。

※1：「USB 1.1 Controller」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。
※2：「Legacy USB Support」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。
※3：「USB Storage Device Support」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。
※4：USBストレージデバイスが接続されていない場合は表示されません。
※5:「Internal LAN」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。
※6：「Network Boot Agent」または「Resume On LAN」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。

「Security」メニュー

設定項目	設定値	説明
Supervisor Password	―	スーパバイザパスワードが設定されているかどうかが表示されます。
User Password	―	ユーザパスワードが設定されているかどうかが表示されます。
Change Supervisor Password	―	スーパバイザパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。
Change User Password	―	ユーザパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。
Password Check	【Setup】 Always	システム起動時にパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。
Hard Disk Security	―	ハードディスクパスワードの設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「Hard Disk Security」(p.139)をご覧ください。

◆スーパバイザパスワード、ユーザパスワードの設定

「Change Supervisor Password」または「Change User Password」にカーソルを合わせて【Enter】を押すと表示される設定画面で設定します。

新しくパスワードを設定する場合は、「Enter New Password」欄に設定するパスワードを入力して【Enter】を押し、「Confirm New Password」欄に確認のために同じパスワードを入力して【Enter】を押してください。

設定済みのパスワードを変更する場合は、「Enter Current Password」欄に現在のパスワードを入力して【Enter】を押した後で、新しくパスワードを設定する場合と同様にパスワードを入力してください。

チェック!!

- パスワードで使用できる文字は半角英数字のみで、15文字以内でなければなりません。また、大文字／小文字の区別はありません。
- スーパバイザパスワードの場合、新しいパスワードに何も入力しないで【Enter】を押せば、スーパバイザパスワード、ユーザパスワードの両方が解除されます。
- ユーザパスワードのみを解除したい場合は、一度、スーパバイザパスワードを解除し、その後でスーパバイザパスワードのみを設定し直してください。
- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れてしまった場合、有償での解除処置となります。詳しくは『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「電源を入れたとき」の「パスワードを忘れてしまった」をご覧ください。

◎ Hard Disk Security

ハードディスクパスワードの設定を変更する場合は、本機の電源が切れている状態からBIOSセットアップユーティリティを起動し、設定を行ってください。

ハードディスクパスワードの設定を行います。

設定項目	設定値	説明
Internal HDD Password is	―	SSDのパスワードが設定されているかどうかが表示されます。
Internal HDD Master Password	―	SSDのマスタパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。
Internal HDD User Password	―	SSDのユーザパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。

◆ハードディスクパスワードの設定

設定するパスワードの項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定画面が表示されます。
すでにパスワードが設定されている場合は「Enter Current Password」欄が表示されるので、現在のパスワードを入力し【Enter】を押します。
「Enter New Password」欄に新しいパスワードを入力して【Enter】を押し、「Confirm New Password」欄に確認のために同じパスワードを入力して【Enter】を押すと設定されます。
ハードディスクパスワードを設定しても、設定したハードディスクマスタパスワードやハードディスクユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。

チェック!!

- パスワードに使用できる文字は半角英数字のみで、32文字以内でなければなりません。また、大文字/小文字の区別はありません。
- ハードディスクパスワードは必ずハードディスクマスタパスワード/ハードディスクユーザパスワードの両方を設定してください。
- ユーザパスワードは、マスタパスワードが設定されていなければ設定できません。
- 「Enter Current Password」欄は、一度入力すると次回起動時まで表示されません。
- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除または無効にしておいてください。また、起動できずにパスワードを解除または無効にできない場合は、修理から戻ってきた際に、使用していたマスタパスワードとユーザパスワードを再設定してください。
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックの解除はできません。SSDに保存されているデータは二度と使用できなくなり、SSDも有償で交換することになります。ハードディスクパスワードは忘れないように十分注意してください。

◆SSDのロックの解除

本機の起動時にSSDがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクパスワードを再設定し、SSDのロックを解除してください。

● ハードディスクユーザパスワードがわかる場合

本機の電源を切り、もう一度電源を入れてBIOSセットアップユーティリティを起動し、ハードディスクユーザパスワードを再設定してください。

● ハードディスクマスタパスワードがわかる場合

本機の電源を切り、もう一度電源を入れてBIOSセットアップユーティリティを起動し、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードを再設定してください。

チェック!!

- SSDがロックされたという内容のメッセージが表示された状態で、ハードディスクユーザパスワードまたはハードディスクマスタパスワードを入力すると一時的にロックを解除することができます。
- ロックを一時的に解除している状態では、スリープ状態および休止状態にしないでください。

◆ハードディスクパスワードの解除

パスワードを解除したいSSDのマスタパスワードの項目にカーソルを合わせて【Enter】を押し設定画面を表示させます。
「Enter Current Password」欄に現在のパスワードを入力し【Enter】を押し、「Enter New Password」欄および「Confirm New Password」欄に何も入力しないで【Enter】を押すとパスワードが解除されます。

チェック!!

「Enter Current Password」欄は、一度入力すると次回起動時まで表示されません。

「Boot」メニュー

設定項目	設定値	説明
Boot Device Priority	ー	本機を起動するときに、OSを検索するデバイスの順番を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「Boot Device Priority」(p.143)をご覧ください。
Hard Disk Drives	ー	起動するハードディスクの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「Hard Disk Drives」(p.143)をご覧ください。
Removable Drives※1	ー	起動するフロッピーディスクドライブなどのリムーバブルドライブの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「Removable Drives」(p.144)をご覧ください。
CD/DVD Drives※2	ー	起動するDVD/CDドライブの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「CD/DVD Drives」(p.144)をご覧ください。

※1：リムーバブルドライブを接続していない場合は表示されません。
※2：DVD/CDドライブを接続していない場合は表示されません。

◎ Boot Device Priority

本機を起動するときに、OSを検索するデバイスと順番を設定します。

設定項目	設定値	説明
1st Boot Device	Removable Drives 【CD/DVD Drives】 Hard Disk Drives Network:XXXX※1 Disabled	「1st Boot Device」から順番に、設定したデバイスからの起動を試みます。設定できるデバイスは次の通りです。 ・「Removable Drives」：フロッピーディスクドライブなどのリムーバブルドライブ ・「CD/DVD Drives」：DVD/CDドライブ ・「Hard Disk Drives」：SSDやハードディスク ・「Network:XXXX」：LANなどのネットワーク ・「Disabled」：使用しない
2nd Boot Device	【Removable Drives】 CD/DVD Drives Hard Disk Drives Network:XXXX※1 Disabled	
3rd Boot Device	Removable Drives CD/DVD Drives 【Hard Disk Drives】 Network:XXXX※1 Disabled	
4th Boot Device ※1	Removable Drives CD/DVD Drives Hard Disk Drives 【Network:XXXX】 Disabled	
Boot from Other Device	No 【Yes】	「1st Boot Device」〜「4th Boot Device」で設定したデバイスから起動できなかった場合に、他のデバイスから起動するかどうかを設定します。

※1：「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Setup」で、「Network Boot Agent」を「Disabled」に設定している場合は表示されません。

◎ Hard Disk Drives

設定項目※1	設定値	説明
1st Drive	xxxxxxx※2 Disabled	1st Driveに設定するハードディスクドライブを選択します。選択しない場合は「Disabled」に設定してください。

※1：ドライブが複数接続されている場合は、「2nd Drive」、「3rd Drive」…のように設定項目が複数表示されます。
※2：本機に接続されているハードディスクドライブが表示されます。

◎ Removable Drives

設定項目※1	設定値	説明
1st Drive	xxxxxxx※2 Disabled	1st Driveに設定するリムーバブルドライブを選択します。選択しない場合は「Disabled」に設定してください。

※1：ドライブが複数接続されている場合は、「2nd Drive」、「3rd Drive」…のように設定項目が複数表示されます。
※2：本機に接続されているリムーバブルドライブが表示されます。

◎ CD/DVD Drives

設定項目※1	設定値	説明
1st Drive	xxxxxxx※2 Disabled	1st Driveに設定するDVD/CDドライブを選択します。選択しない場合は「Disabled」に設定してください。

※1：ドライブが複数接続されている場合は、「2nd Drive」、「3rd Drive」…のように設定項目が複数表示されます。
※2：本機に接続されているDVD/CDドライブが表示されます。

PART

4

付録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的に合わせて該当するページをお読みください。

この章の内容

割り込みレベル･DMAチャネル

本機が工場出荷時に使用しているリソースについて説明しています。

割り込みレベルとDMAチャネルについて

リソースは、機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態（リソースの競合）では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいますので、競合しないように設定してください。

◎ 割り込みレベル

「割り込みレベル（IRQ）」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。本機では、工場出荷時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	14	ATA Channel
1	キーボード	15	ATA Channel
2	（空き）	16	HD Audioコントローラ
3	（空き）		グラフィック
4	（空き）		PCI Express
5	（空き）		SDホストコントローラ
6	（空き）	17	PCI Express
7	（空き）		SDホストコントローラ
8	システムクロック		IDEコントローラ
9	（空き）	18	SDホストコントローラ
10	（空き）	19	USBホストコントローラ
11	（空き）		USBホストコントローラ
12	スティック型ポインタ		USBホストコントローラ
13	数値データプロセッサ		

※：内蔵LANインターフェースのIRQは、Windowsのデバイスマネージャでは「－2」と表示されます。

◎ DMAチャネル

「DMAチャネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。本機では、工場出荷時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス
#0	(空き)
#1	(空き)
#2	(空き)
#3	(空き)
#4	DMAコントローラ

お手入れについて

お手入れを始める前に

チェック!!

- シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。
- 水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

◎ 準備するもの

◆ 軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

◆ 汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

お手入れのしかた

チェック!!

お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。通常パソコンを使用していないときも、パソコンがスリープ状態になっている場合があります。一度、Windowsを起動してから、電源を切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。バッテリも外してください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

◆パソコン本体、キーボード

やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってからふき取ってください。

◆液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いた布でふいてください。化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。
ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽くふいてください。

◆電源コード／ACアダプタ／ウォールマウントプラグ

電源コードのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。
定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

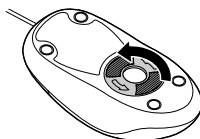
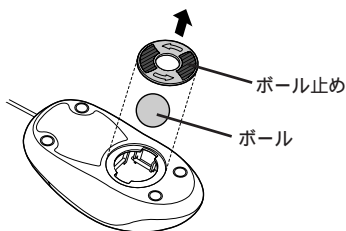
マウスのクリーニング

光センサー式マウスをお使いの場合、マウスの底面のセンサーにほこりなどが付着して、マウスの移動を正しく読み取ることができなくなる場合があります。
センサー周辺の汚れやほこりを軽くはらってください。
ボール式マウスをお使いの場合は、マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。次の手順で定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、手順4〜5は省略してもかまいません。

チェック!!

- **クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。**
- **クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。**
- **水やぬるま湯は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因になります。**
- **シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装を傷めたり、故障の原因になったりします。**
- **ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。**
  ローラーに傷が付き、故障の原因になります。

1 **本機の電源を切り、マウスを取り外す**

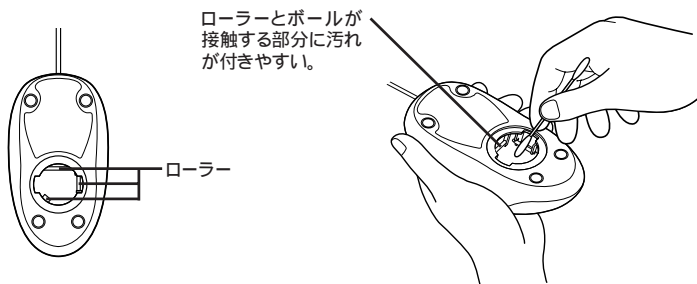
2 **マウスの裏側のボール止めを、矢印の方向に回転させる**

3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す

4 ボールを水かぬるま湯で洗い、汚れを落とす

5 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

6 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、やわらかい歯ブラシなどを使用して汚れを取ってください。

チェック!!

歯ブラシには水やはみがき粉などを付けないでください。

7 ボールをマウスに戻す

8 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定する

索引

英字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

不要になった二次電池は、
貴重な資源を守るために
廃棄しないでリサイクル
にご協力ください。

活用ガイド
ハードウェア編

PC98-NX シリーズ

VersaPro
VersaPro J

UltraLite タイプVS

初版 2009年6月
NEC

853-810602-352-A